

令和5年度三郷町
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

報告書

令和6年3月

三郷町

【 目 次 】

第1章 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 実施内容	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査期間	1
(4) 回収状況	1
(5) 調査結果の図示方法	1
第2章 調査結果	2
1 属性	2
(1) 回答者	2
(2) 要介護認定状況	2
2 家族や生活状況について	3
(1) 世帯の状況	3
(2) 普段の生活での介護・介助の必要性	4
(3) 介護・介助が必要になった主な原因	5
(4) 主な介護者	7
(5) 現在の暮らしの状況	8
(6) 住まいの種類	9
3 からだを動かすことについて	10
(1) 運動の状況	10
(2) 過去1年間の転倒の経験	10
(3) 転倒に対する不安	11
(4) 外出頻度	12
(5) 外出頻度の減少	13
(6) 外出を控えているか	13
(7) 外出を控えている理由	14
(8) 外出する際の移動手段	15
4 食べることについて	16
(1) 身長・体重 (BMI)	16
(2) 口腔の機能	16
(3) 歯の数と入れ歯の利用状況	18
(4) 噛み合わせは良いか	19
(5) 毎日入れ歯の手入れをしているか	19
(6) この6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少があったか	19
(7) 誰かと食事をともにする機会	20
5 毎日の生活について	22
(1) 認知機能	22
(2) 生活機能全般	23
(3) 日常生活での読み書き	25
(4) 日常生活での他人との関わり	26
(5) 趣味や生きがいの有無	28
6 地域での活動について	29
(1) 社会参加	29

(2) 地域住民によるグループ活動への参加意向	30
7 たすけあいについて	32
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人	32
(2) 自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人	32
(3) 病気の際に看病や世話をしてくれる人	33
(4) 自分が看病や世話をしてあげる人	33
(5) 家族や友人・知人以外の相談相手	34
(6) 友人・知人と会う頻度	35
(7) 1 か月間で会った人数	35
(8) よく会う友人・知人	36
8 健康について	37
(1) 現在の健康状態	37
(2) 現在の幸福度	38
(3) うつ傾向	39
(4) 飲酒の状況	40
(5) 喫煙の状況	40
(6) 現在治療中、または後遺症のある病気	41
9 認知症にかかる相談窓口等の把握について	43
(1) 家族に認知症の症状がある人	43
(2) 認知症に関する相談窓口の認知状況	43
10 その他について	44
(1) デマンドタクシーの利用	44
(2) 普段の食事の人数	44
(3) ここ1 ヶ月、平均してよく眠れているか	45
(4) 1 ヶ月の通院回数	45
(5) 病院に何か所通っているか	46
(6) 自分の最期をどこで迎えたいか	46
11 自由記述	47

第1章 調査の概要

1 調査目的

「三郷町高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」策定の基礎資料とするため、高齢者の介護サービスや生活支援のニーズを把握する目的で実態調査を行いました。

2 実施内容

(1) 調査対象

- 一般高齢者（認定なし）900人（住民基本台帳を基に無作為抽出）
- 要支援・要介護認定者80人
- 総合事業対象者20人

(2) 調査方法

郵送配布、郵送回収により実施

(3) 調査期間

令和5年6月22日～7月14日

※7月28日までに返送された調査票を集計対象としました。

(4) 回収状況

対象者	配布数	回収数	回収率
一般高齢者	900	649	72.1%
要支援・要介護認定者	80	55	68.8%
総合事業対象者	20	13	65.0%
全体	1,000	717	71.7%

(5) 調査結果の図示方法

- ・設問ごとの集計母数はグラフ中に「N=***」、項目ごとの回答数は「n=***」と図記している。
- ・集計結果の百分率（%）は、小数点第2位を四捨五入した値を図記している。このため、単数回答の設問では構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合がある。また、2つ以上の選択肢を集約した項目の割合が、選択肢ごとの割合の合計と一致しない場合がある。
- ・複数回答設問では、当該設問に回答すべき回答者数を母数として選択肢ごとにそれぞれ構成比を求めている。そのため、構成比の合計は通常100.0%にはならない。
- ・クロス集計のグラフ・数図では、集計区分ごとの集計母数を「N=***」と図記している。

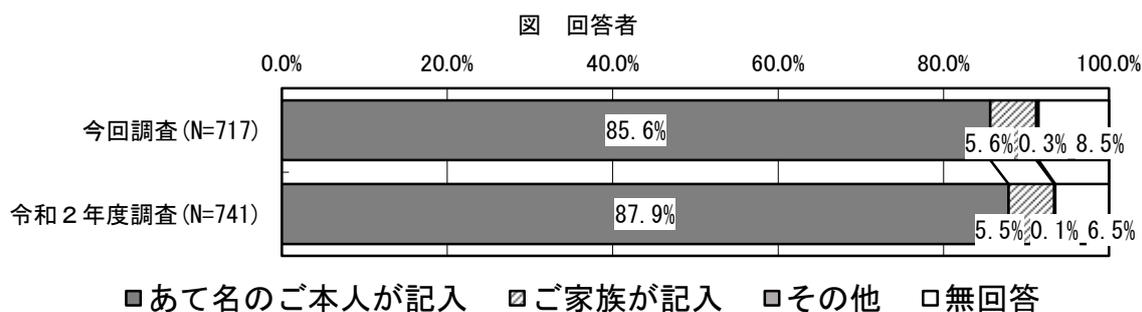
第2章 調査結果

1 属性

(1) 回答者

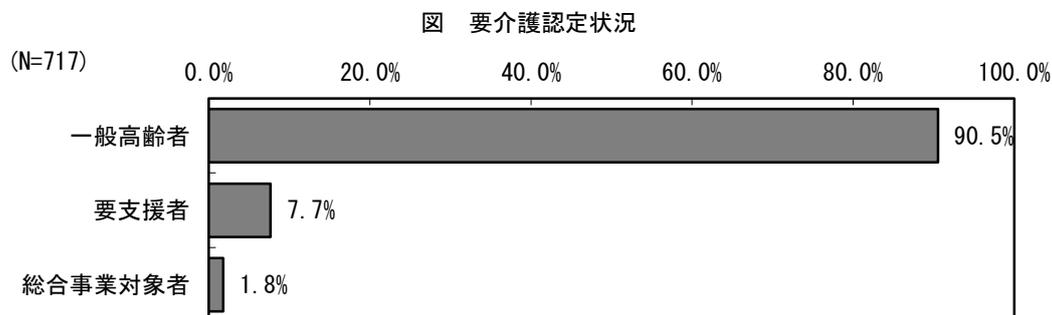
回答者は、「あて名のご本人が記入」（85.6%）が最も多く、次いで「ご家族が記入」（5.6%）、「その他」（0.3%）となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



(2) 要介護認定状況

要介護認定状況は、「一般高齢者」（認定なし）（90.5%）が最も多く、次いで「要支援者」（7.7%）、「総合事業対象者」（1.8%）となっています。

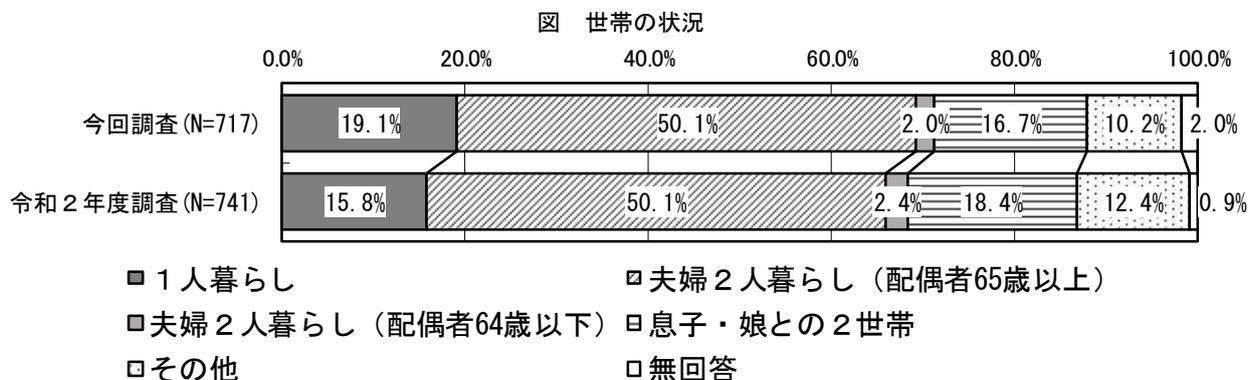


2 家族や生活状況について

(1) 世帯の状況

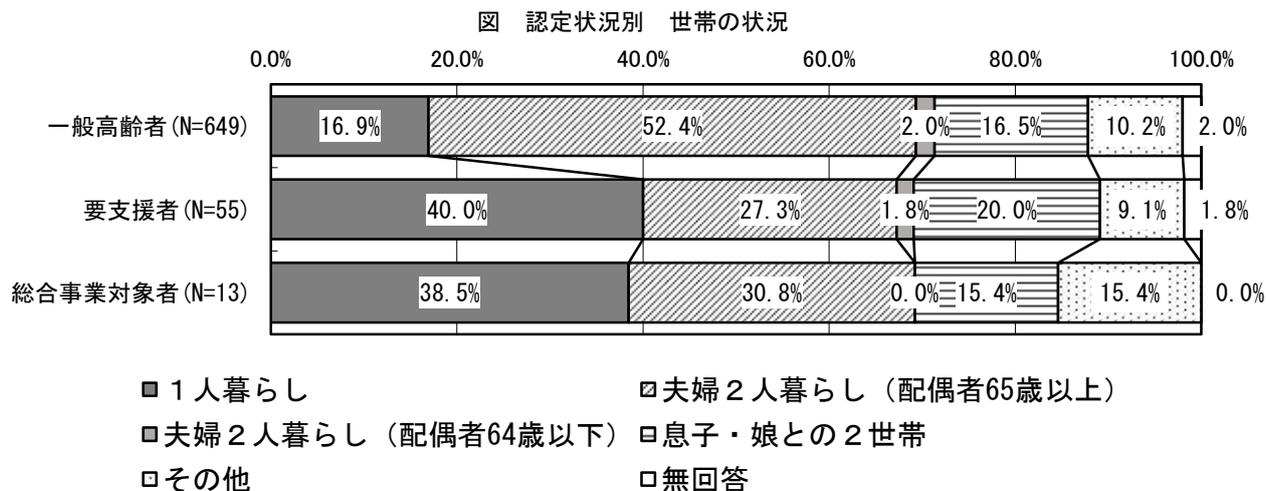
世帯の状況は、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」（50.1%）が最も多く、次いで「1人暮らし」（19.1%）、「息子・娘との2世帯」（16.7%）となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

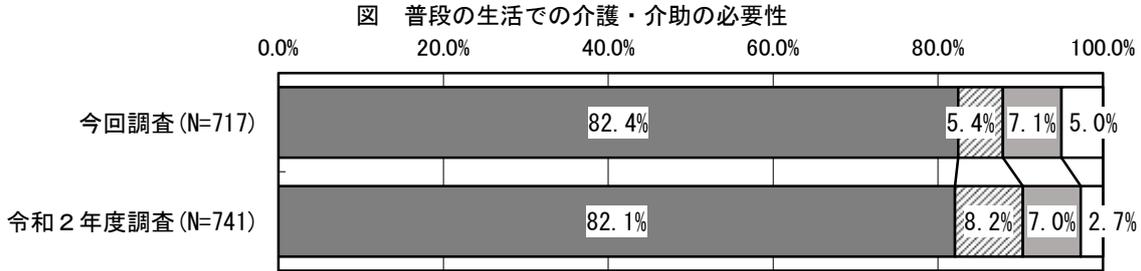
認定状況別にみると、「1人暮らし」は要支援者と総合事業対象者が約4割となっています。



(2) 普段の生活での介護・介助の必要性

普段の生活での介護・介助の必要性についてみると、「介護・介助は必要ない」(82.4%)が最も多く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」(7.1%)、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(5.4%)となっています。

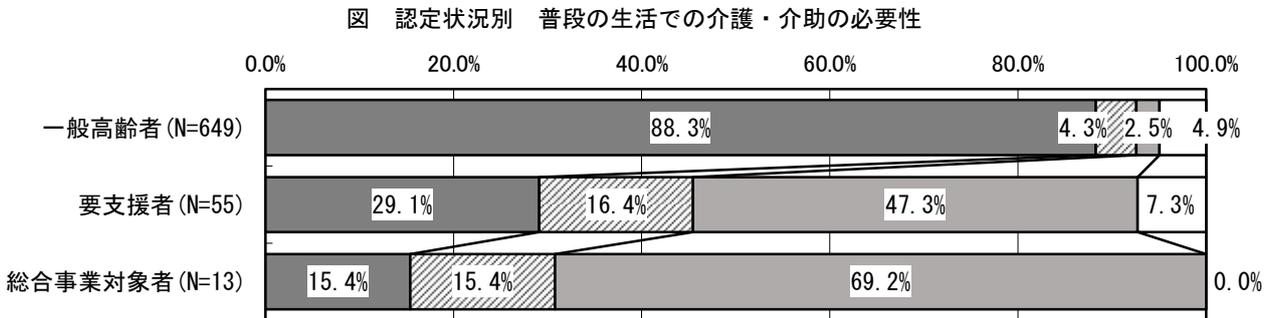
令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



- 介護・介助は必要ない
- ▨ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- ▩ 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

● 認定状況別

認定状況別にみると、「現在、何らかの介護を受けている」は総合事業対象者が69.2%で最も多くなっています。また、要支援者、総合事業対象者ともに「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が約15%となっています。



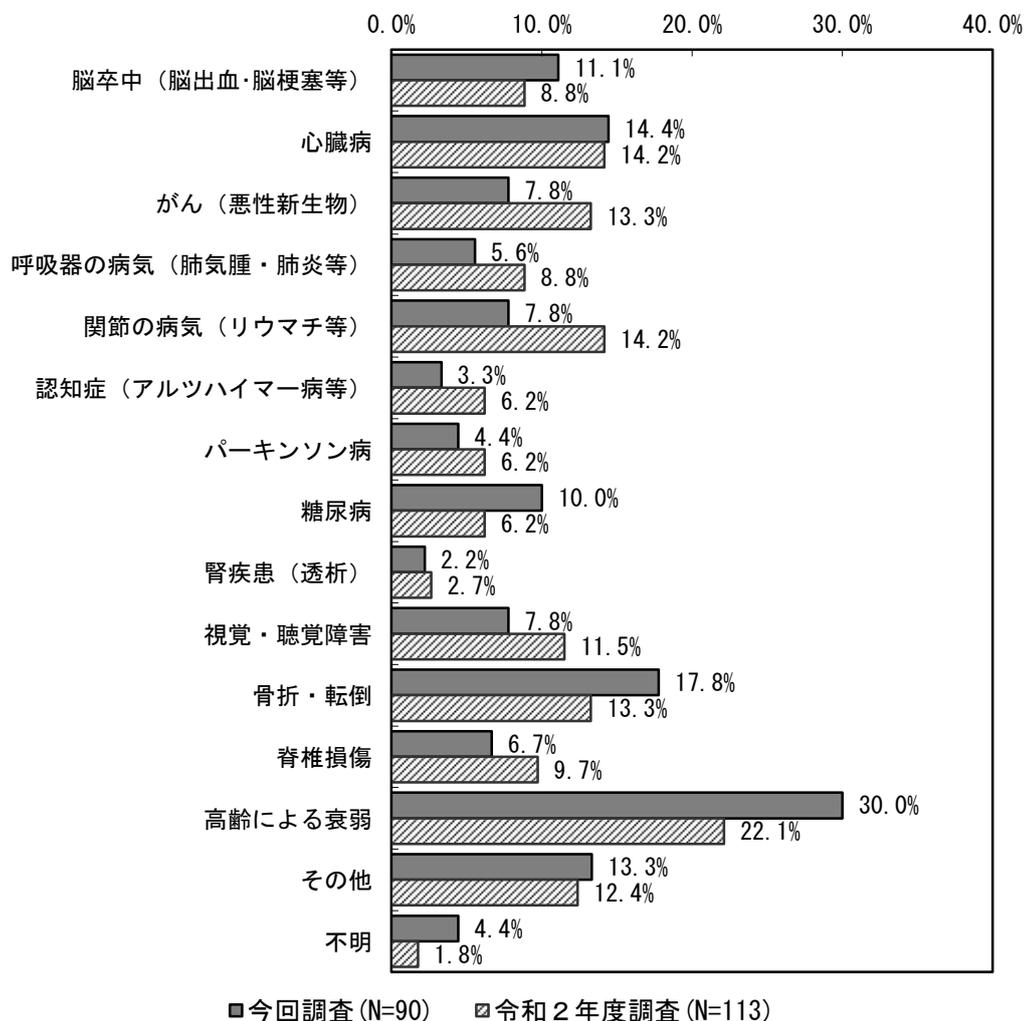
- 介護・介助は必要ない
- ▨ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- ▩ 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

(3) 介護・介助が必要になった主な原因

介護・介助が必要になった主な原因についてみると、「高齢による衰弱」（30.0%）が最も多く、次いで「骨折・転倒」（17.8%）、「心臓病」（14.4%）となっています。

令和2年度調査と比較すると、「高齢による衰弱」は7.9ポイント多くなっています。

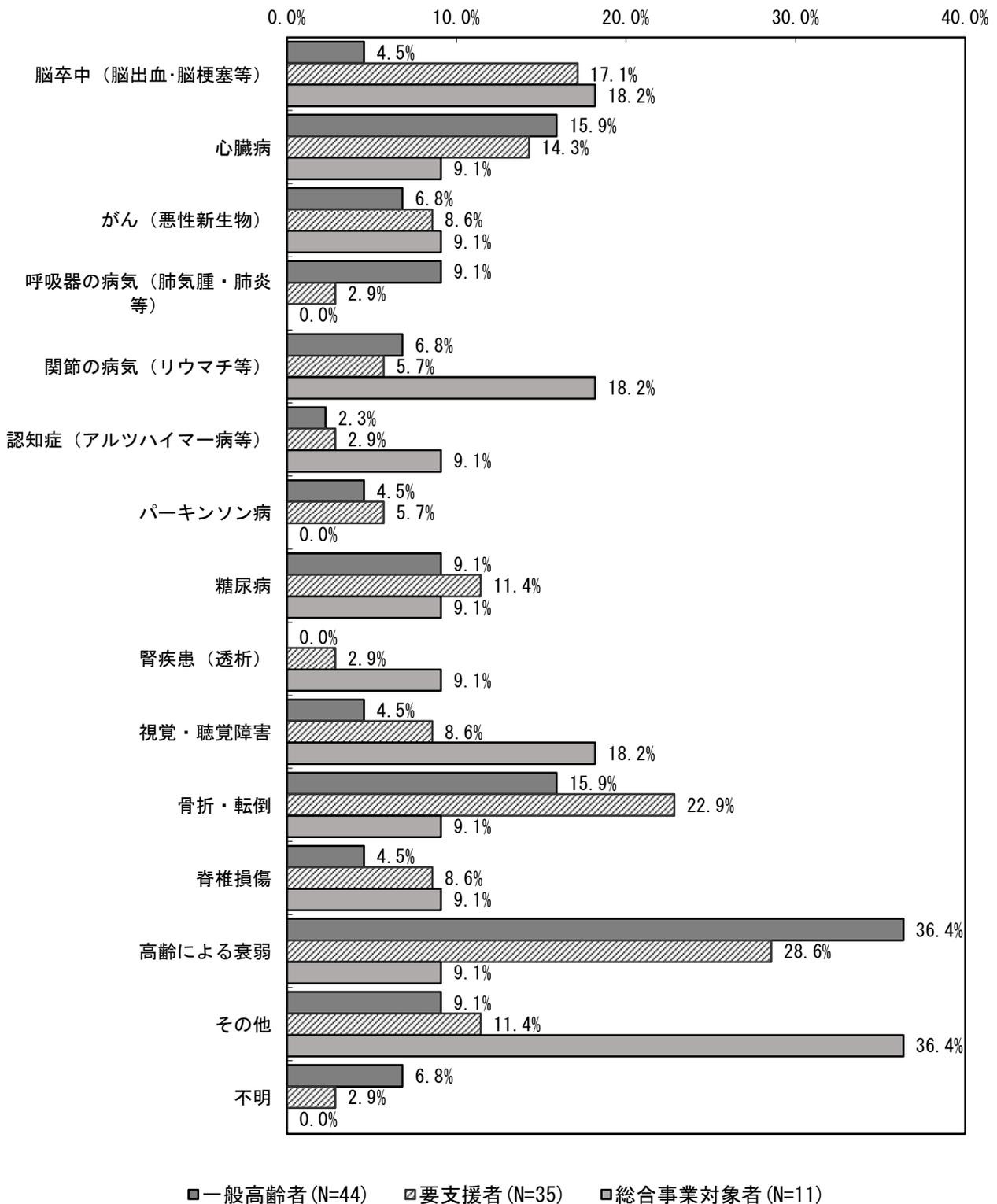
図 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）



● 認定状況別

認定状況別にみると、一般高齢者と要支援者では「高齢による衰弱」が最も多くなっています。総合事業対象者は「その他」（36.4%）を除くと、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、「関節の病気（リウマチ等）」、「視覚・聴覚障害」（それぞれ18.2%）が最も多くなっています。

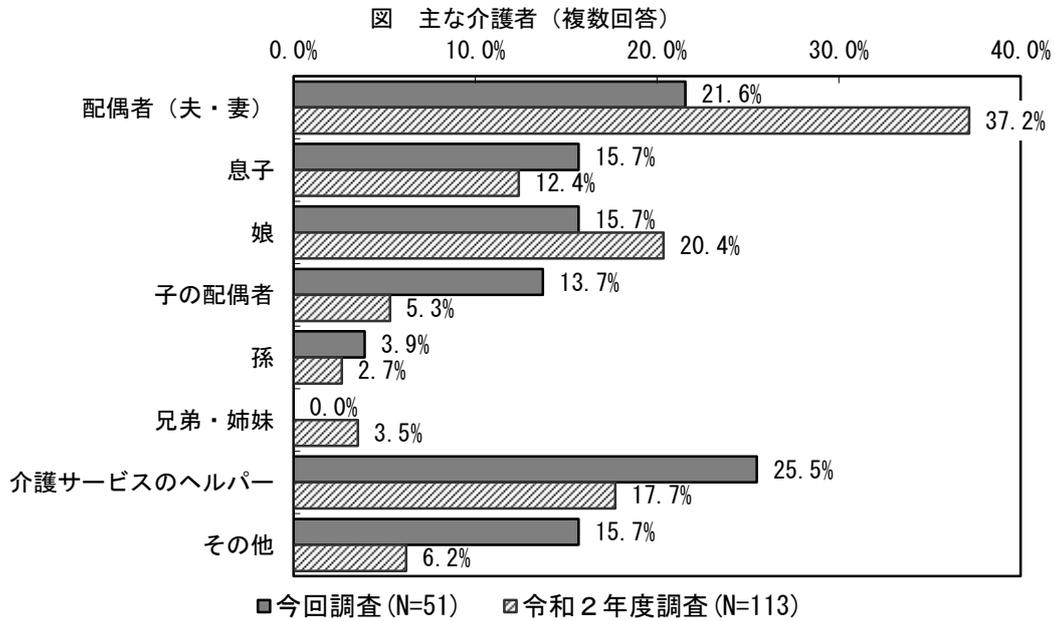
図 認定状況別 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）



(4) 主な介護者

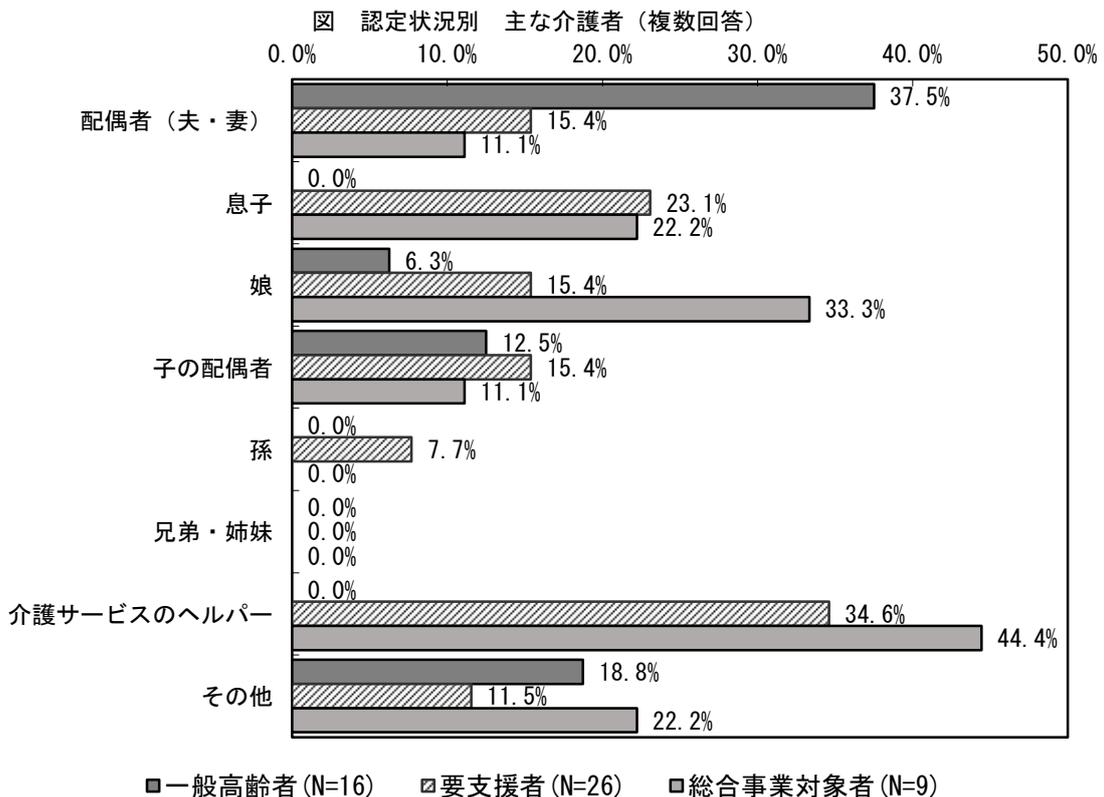
主な介護者についてみると、「介護サービスのヘルパー」(25.5%)が最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」(21.6%)、「息子」(15.7%)、「娘」(15.7%)、「その他」(15.7%)となっています。

令和2年度調査と比較すると、「配偶者(夫・妻)」が15.6ポイント少なく、「介護サービスのヘルパー」が7.8ポイント多くなっています。



● 認定状況別

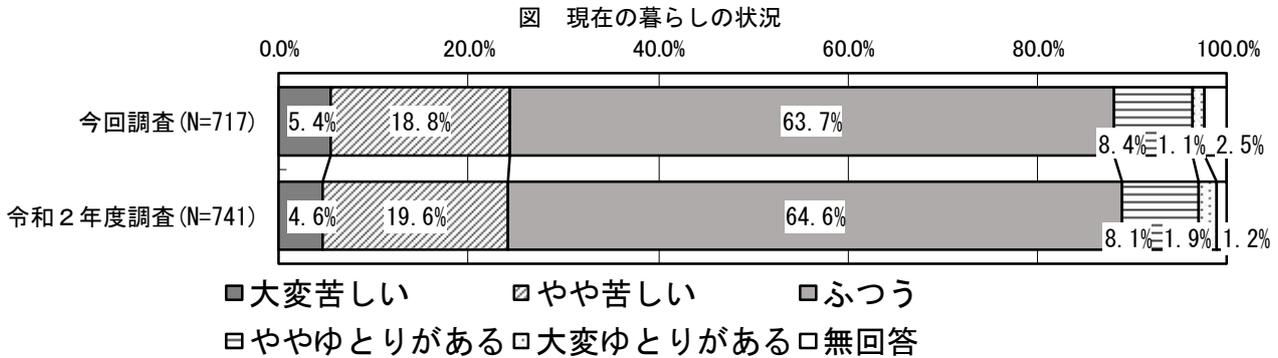
認定状況別にみると、一般高齢者では「配偶者(夫・妻)」(37.5%)が最も多くなっています。要支援者と総合事業対象者では「介護サービスのヘルパー」が最も多くなっています。



(5) 現在の暮らしの状況

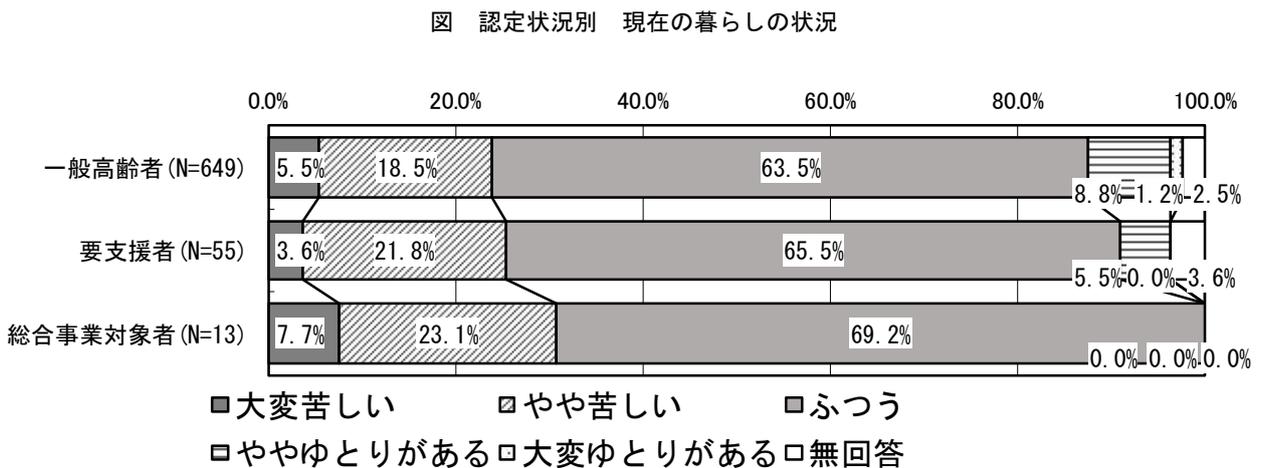
現在の暮らしの状況についてみると、「ふつう」(63.7%)が最も多く、次いで「やや苦しい」(18.8%)、「ややゆとりがある」(8.4%)となっています。また、現在の暮らしの状況が苦しい方(「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計)は24.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

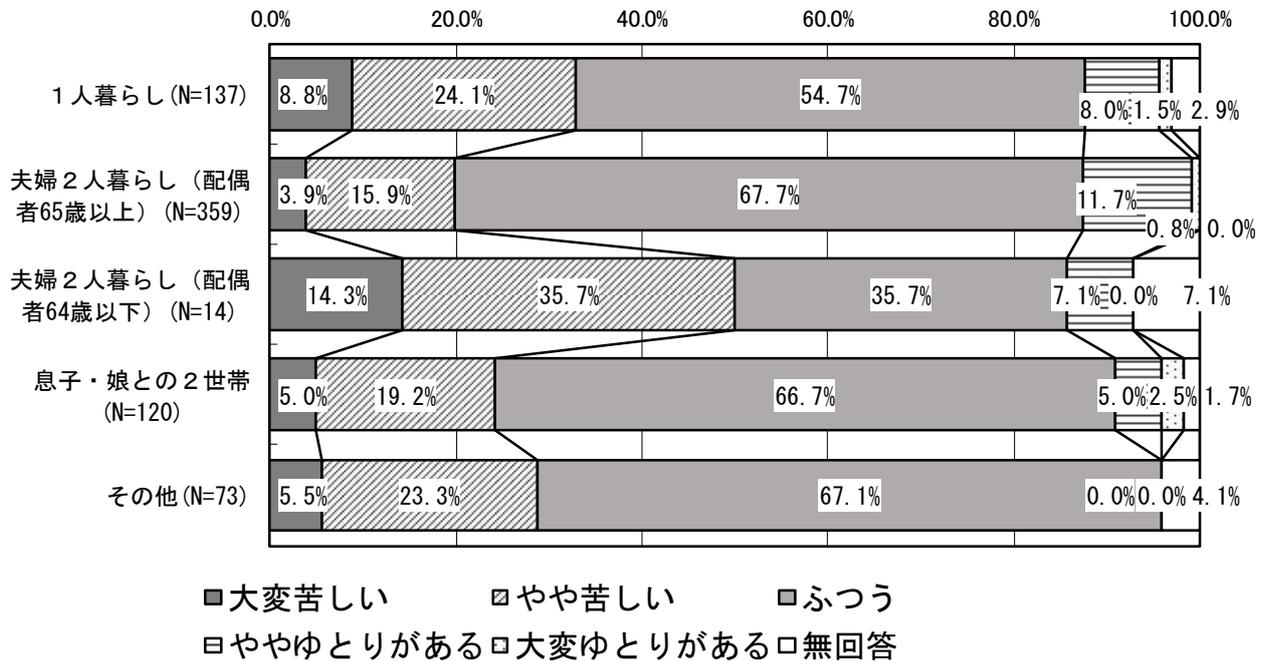
認定状況別にみると、現在の暮らしの状況が苦しい方は総合事業対象者が30.8%で最も多くなっています。



● 世帯類型別

世帯類型別にみると、現在の暮らしの状況が苦しい方は夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が50.0%で最も多くなっています。

図 世帯類型別 現在の暮らしの状況

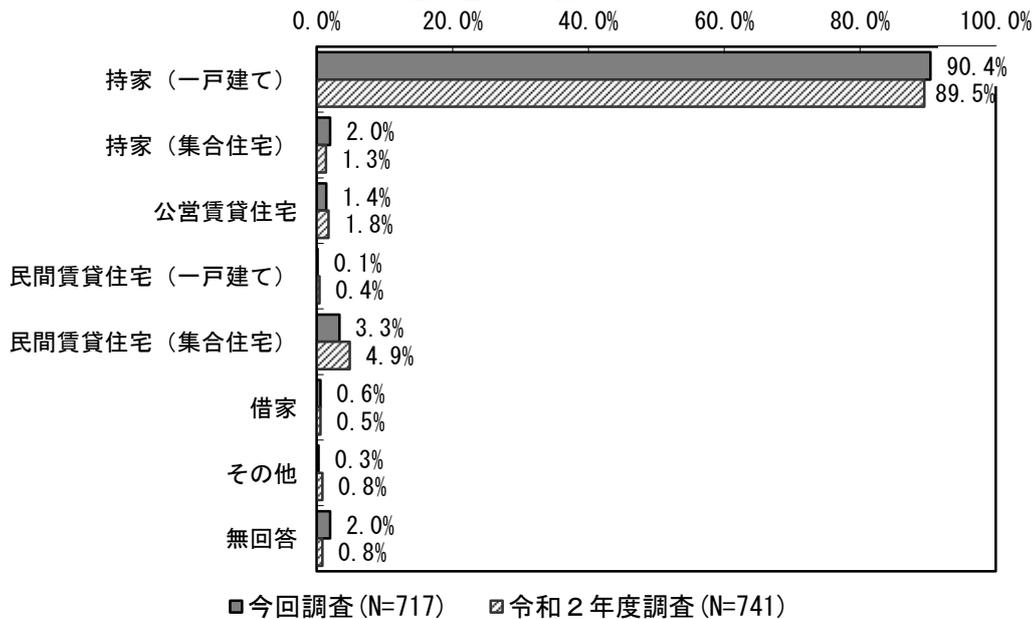


(6) 住まいの種類

住まいの種類についてみると、「持家（一戸建て）」（90.4%）が最も多く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」（3.3%）、「持家（集合住宅）」（2.0%）となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

図 住まいの種類



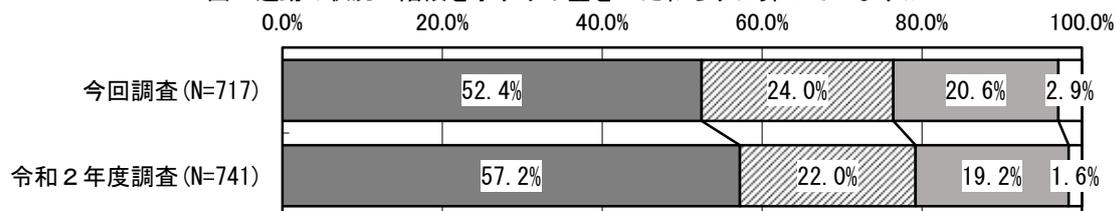
3 からだを動かすことについて

(1) 運動の状況

運動の状況を見ると、いずれの項目も「できるし、している」が5割以上となっており、「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか」と「15分位続けて歩いていますか」では7割以上となっています。一方、「できない」は「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」が20.6%と最も多くなっています。

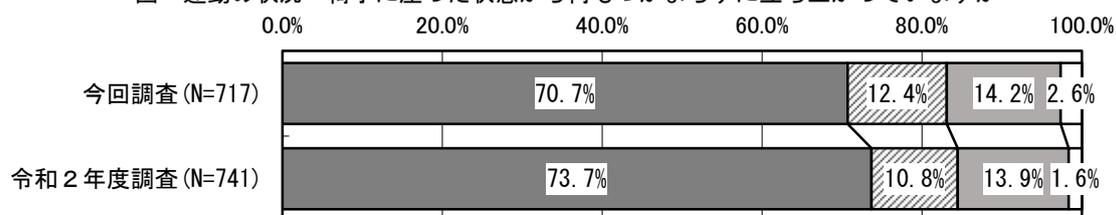
令和2年度調査と比較すると、「15分位続けて歩いていますか」では「できるし、している」が7.5ポイント少なくなっています。

図 運動の状況 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか



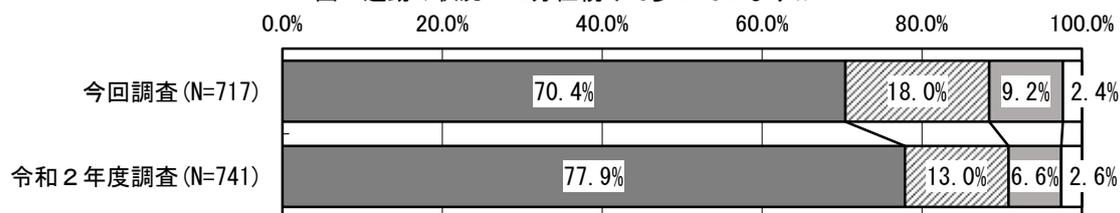
■できるし、している □できるけどしていない □できない □無回答

図 運動の状況 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか



■できるし、している □できるけどしていない □できない □無回答

図 運動の状況 15分位続けて歩いていますか



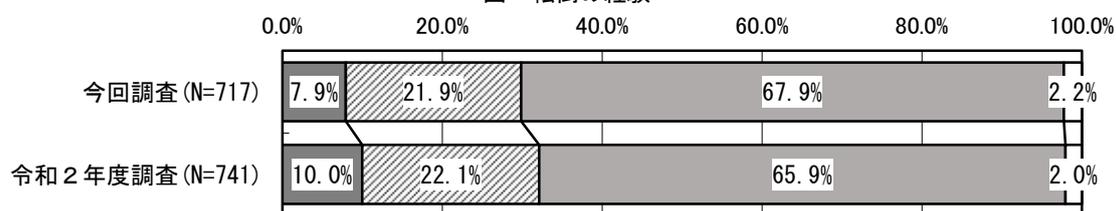
■できるし、している □できるけどしていない □できない □無回答

(2) 過去1年間の転倒の経験

過去1年間の転倒の経験をみると、「ない」(67.9%)が多く、次いで「1度ある」(21.9%)、「何度もある」(7.9%)となっています。過去1年間に転倒の経験がある方(「何度もある」と「1度ある」の合計)は29.8%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

図 転倒の経験

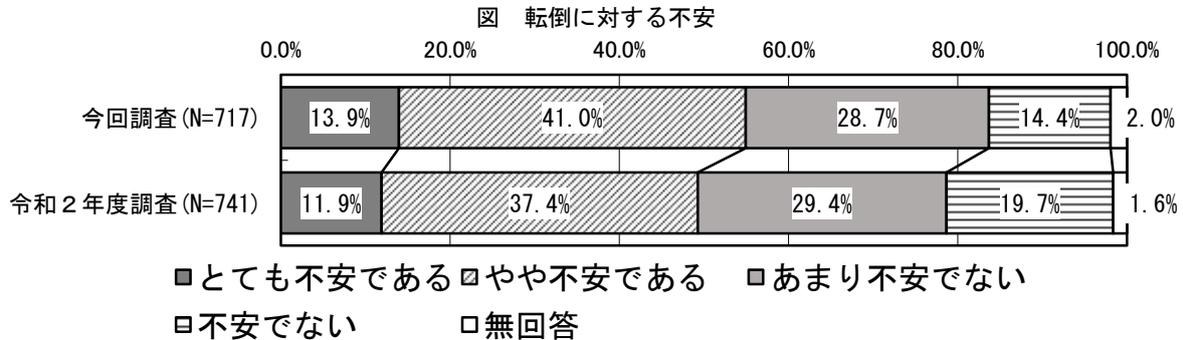


■何度もある □1度ある □ない □無回答

(3) 転倒に対する不安

転倒に対する不安についてみると、「やや不安である」(41.0%)が最も多く、次いで「あまり不安でない」(28.7%)、「不安でない」(14.4%)となっています。転倒に対する不安がある方(「とても不安である」と「やや不安である」の合計)は54.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「不安でない」は5.3ポイント少なくなっています。

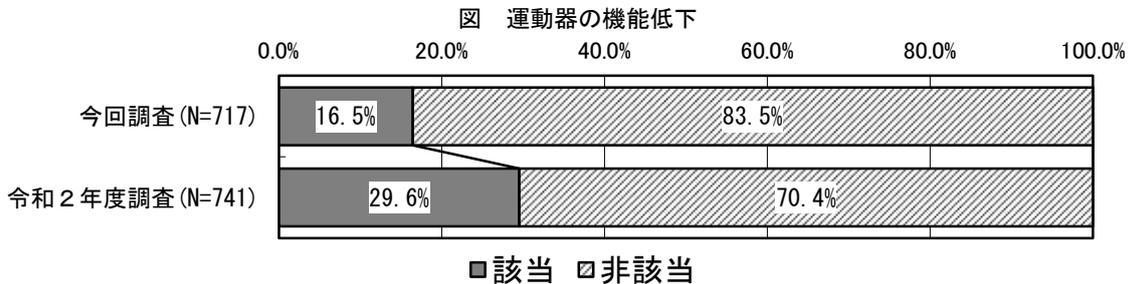


<運動器の機能低下状況>

・「運動の状況」で「できない」
 ・「転倒の状況」で「何度もある」または「1度ある」
 ・「転倒に対する不安」で「とても不安である」または「やや不安である」
 以上の選択肢をそれぞれ1点とし、合計得点が3点以上の方を「運動器機能の低下している高齢者」と判断します。

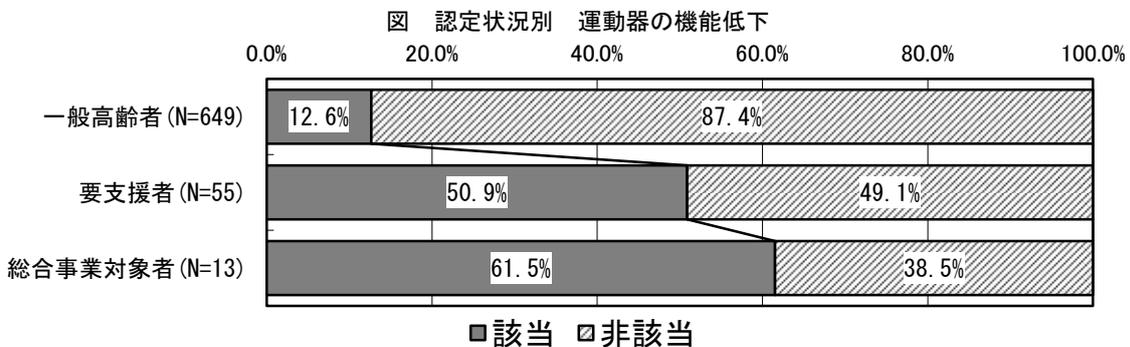
運動器機能の低下している高齢者は16.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、13.1ポイント少なくなっています。



● 認定状況別

認定状況別にみると、運動器機能の低下している高齢者は要支援者と総合事業対象者では5割以上を占めており、総合事業対象者では61.5%となっています。

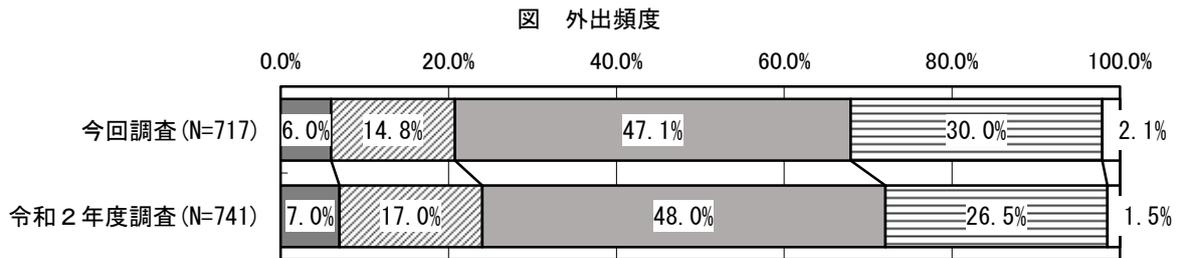


(4) 外出頻度

〈閉じこもり傾向〉

・外出頻度が「ほとんど外出しない」または「週1回」に該当する場合は「閉じこもり傾向のある高齢者」と判定します。さらに、外出頻度の減少で「とても減っている」または「減っている」にも該当する場合は「特に要注意」となります。

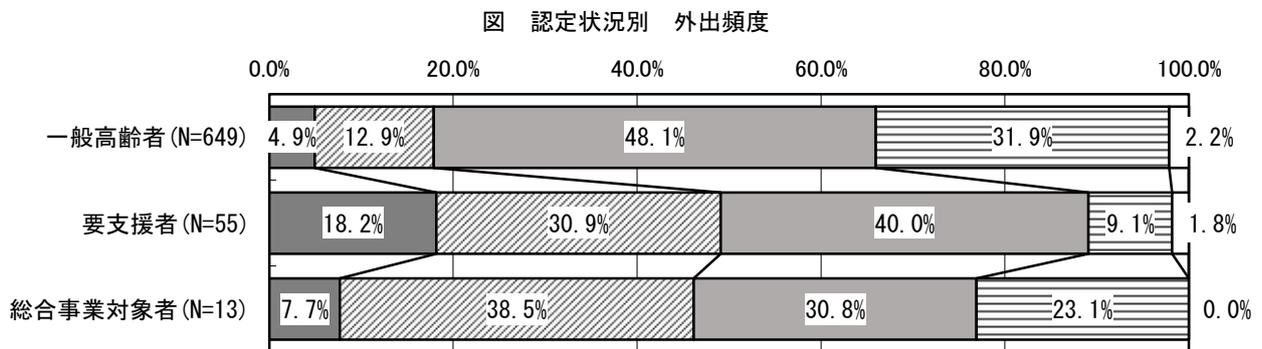
外出頻度についてみると、「週2～4回」（47.1%）が最も多く、次いで「週5回以上」（30.0%）、「週1回」（14.8%）となっています。また、閉じこもり傾向にある高齢者は20.8%となっています。令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



■ほとんど外出しない □週1回 □週2～4回 □週5回以上 □無回答

● 認定状況別

認定状況別にみると、閉じこもり傾向にある高齢者は要支援者と総合事業対象者では約5割となっています。また、「ほとんど外出しない」が要支援者で18.2%と約2割を占めています。



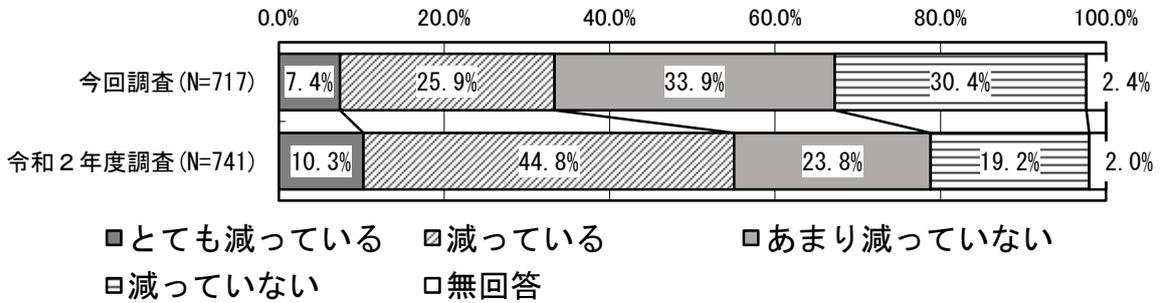
■ほとんど外出しない □週1回 □週2～4回 □週5回以上 □無回答

(5) 外出頻度の減少

外出頻度の減少についてみると、「あまり減っていない」(33.9%)が最も多く、次いで「減っていない」(30.4%)、「減っている」(25.9%)となっています。外出頻度が減っている方(「とても減っている」と「減っている」の合計)は33.3%となっています。

令和2年度調査と比較すると、外出頻度が減っている方は21.8ポイント少なくなっています。

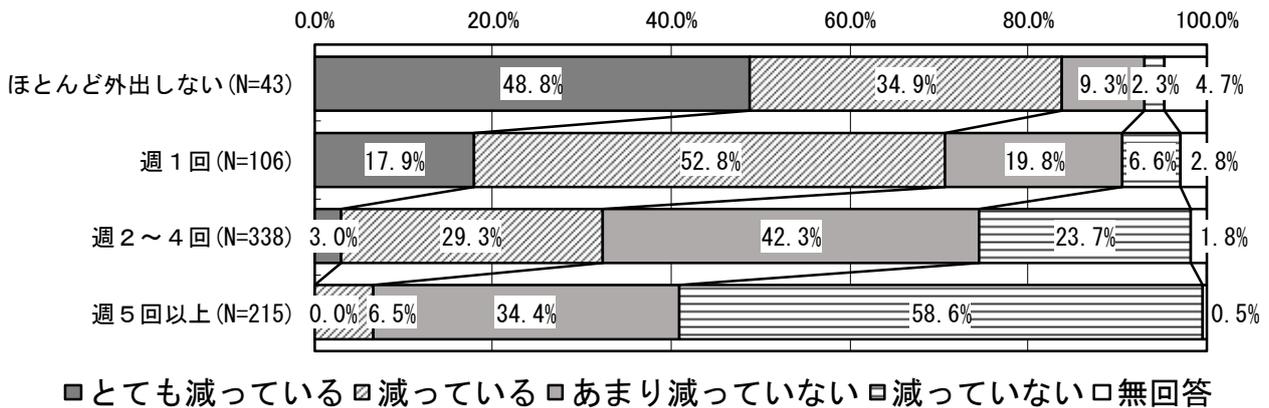
図 外出頻度の減少



● 閉じこもり傾向×外出頻度の減少

閉じこもり傾向と外出頻度の減少状況をクロス集計すると、閉じこもり傾向にある方(「ほとんど外出しない」または「週1回」)で外出頻度が減少している方は7割から8割となっています。

図 閉じこもり傾向×外出頻度の減少

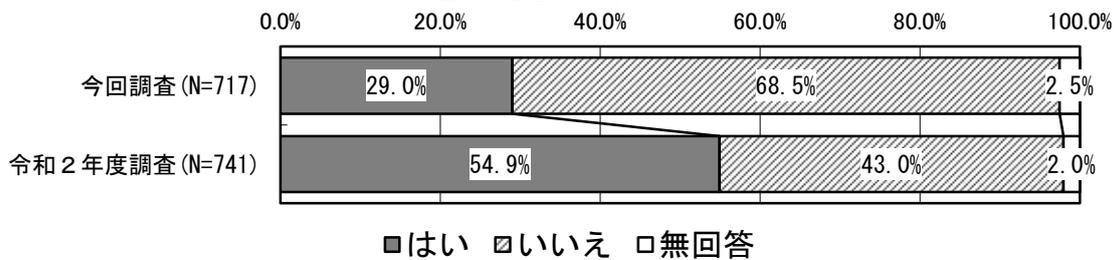


(6) 外出を控えているか

外出を控えているかをみると、「はい」が29.0%、「いいえ」が68.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「はい」は25.9ポイント少なくなっています。

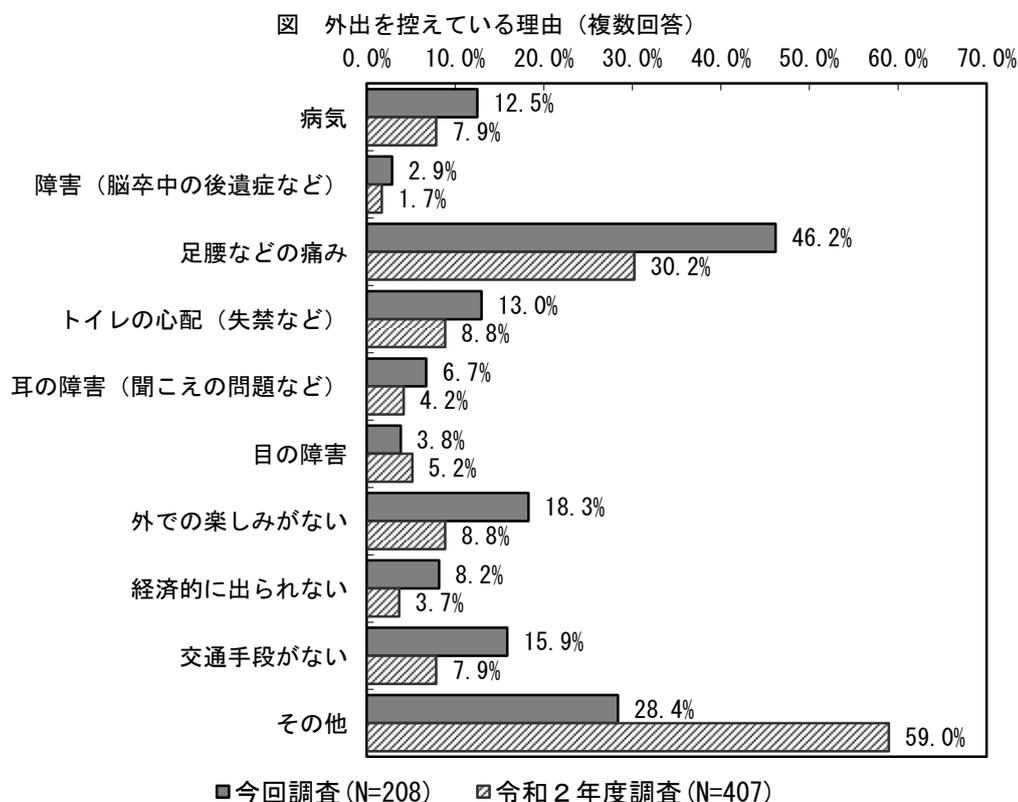
図 外出を控えているか



(7) 外出を控えている理由

外出を控えている理由についてみると、「その他」(28.4%)を除くと、「足腰などの痛み」(46.2%)が最も多く、次いで「外での楽しみがない」(18.3%)、「交通手段がない」(15.9%)となっています。

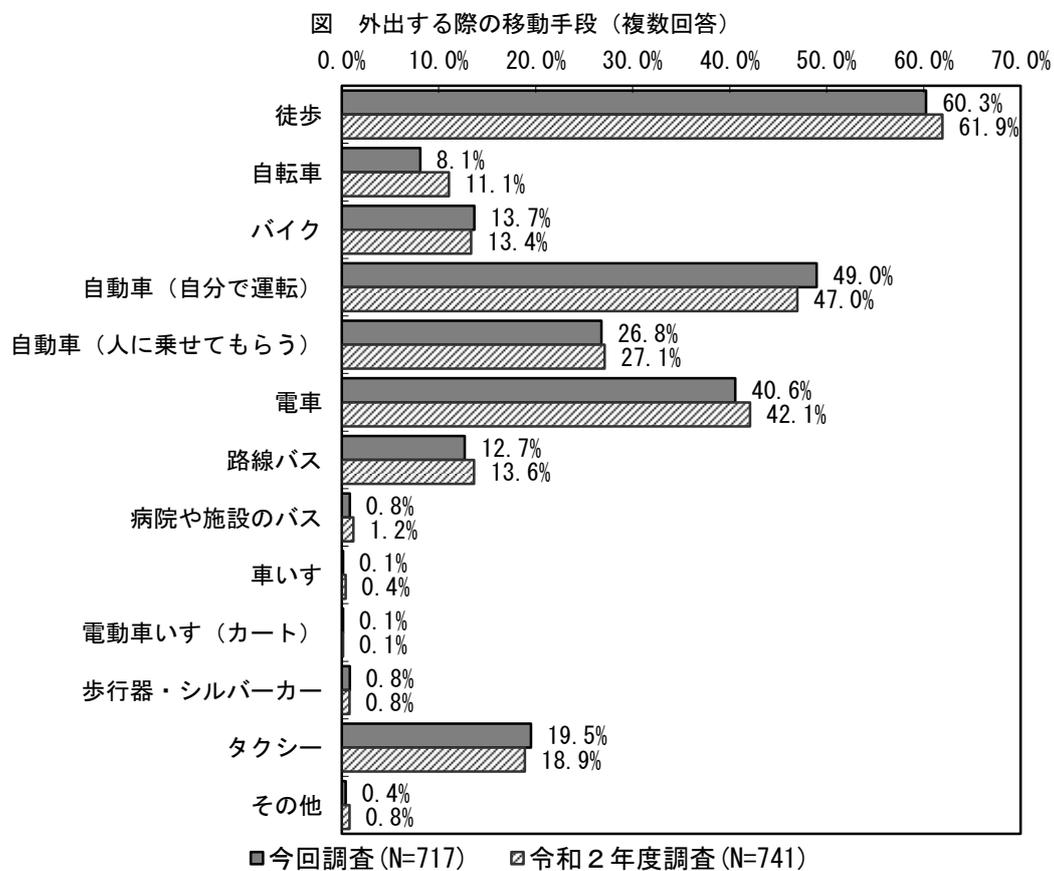
令和2年度調査と比較すると、「足腰などの痛み」は16.0ポイント多くなっています。



(8) 外出する際の移動手段

外出する際の移動手段についてみると、「徒歩」(60.3%)が最も多く、次いで「自動車(自分で運転)」(49.0%)、「電車」(40.6%)となっています。

令和2年度調査と比較すると、上位3項目の順位は同じ結果となっています。

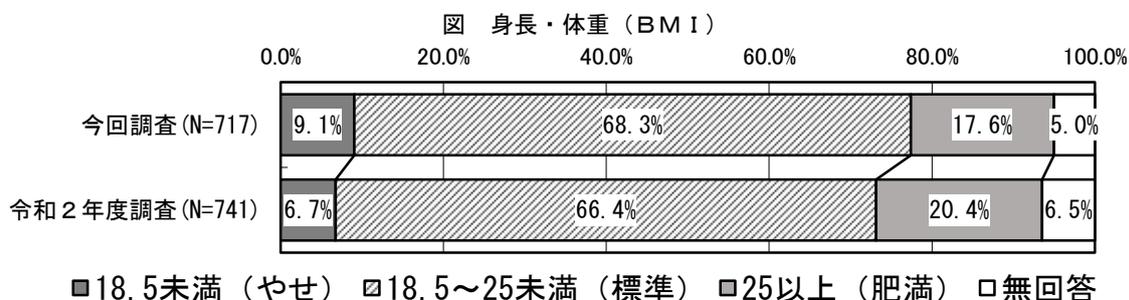


4 食べることについて

(1) 身長・体重 (BMI)

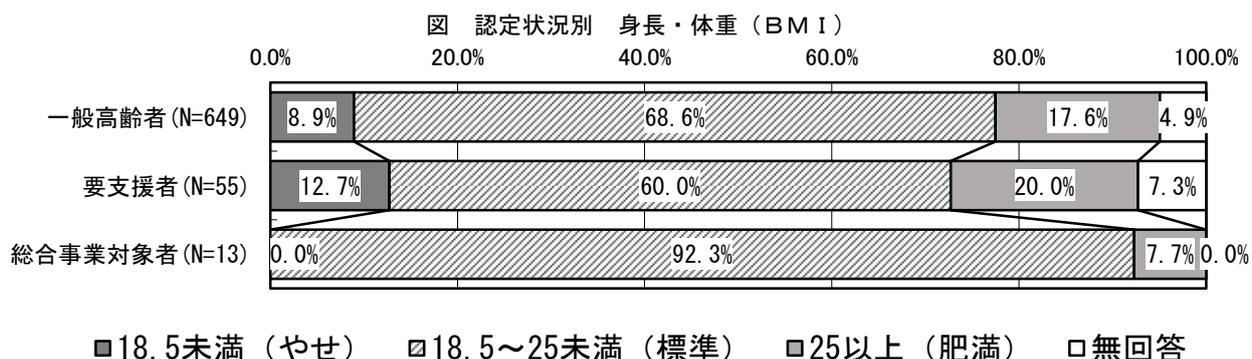
身長と体重からBMIを算出すると、「18.5～25未満(標準)」(68.3%)が最も多く、次いで「25以上(肥満)」(17.6%)、「18.5未満(やせ)」(9.1%)となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

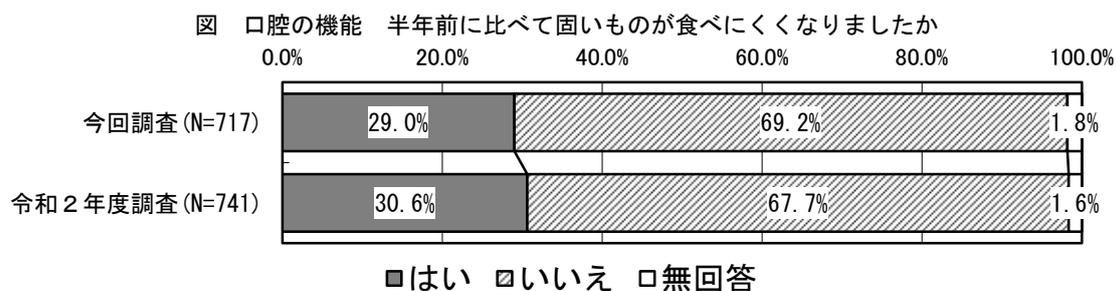
認定状況別にみると、「18.5未満(やせ)」は要支援者が12.7%で最も多くなっています。

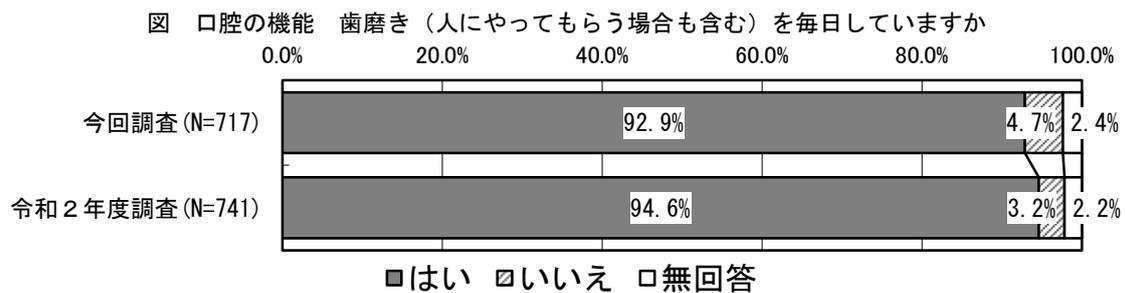
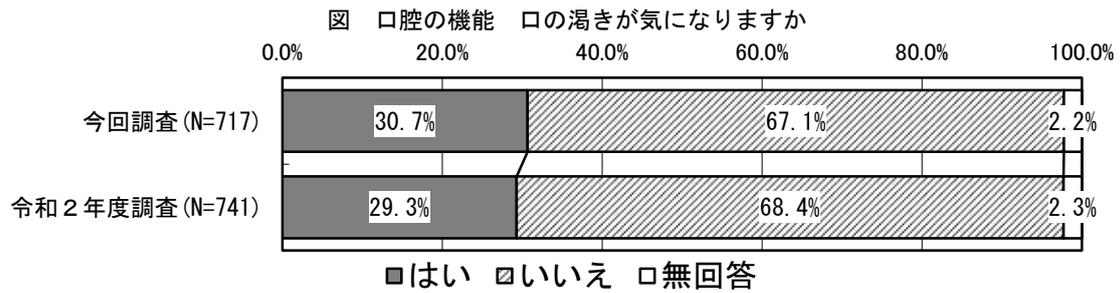
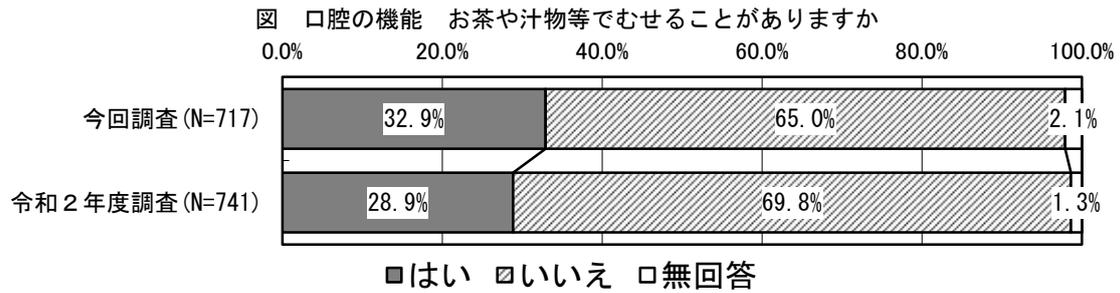


(2) 口腔の機能

口腔の機能についてみると、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」、「お茶や汁物等でむせることがありますか」、「口の渇きが気になりますか」はいずれも「いいえ」が6割以上となっています。また、「歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか」は「はい」が92.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



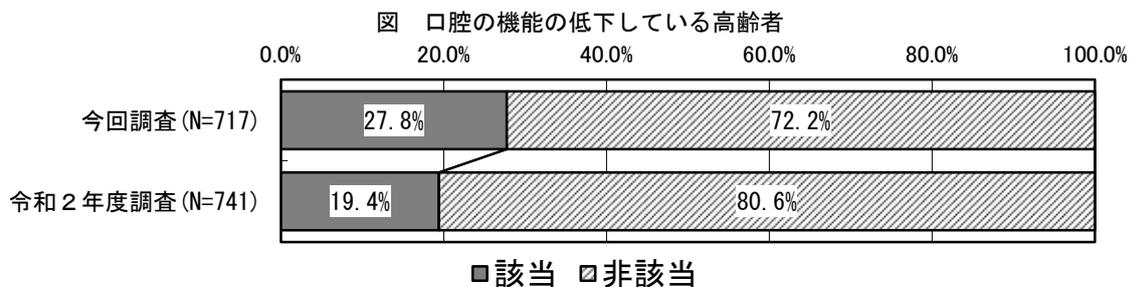


〈口腔機能の低下〉

・口腔機能のうち、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」「お茶や汁物等でむせることがありますか」「口の渇きが気になりますか」の3設問のうち2設問で「はい」に該当する場合は「口腔機能の低下している高齢者」と判定します。

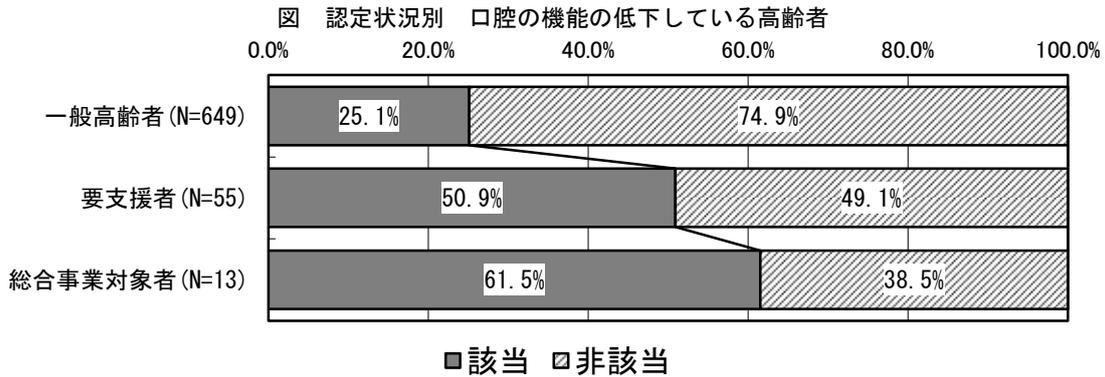
口腔機能の低下している高齢者は27.8%となっています。

令和2年度調査と比較すると、8.4ポイント多くなっています。



● 認定状況別

認定状況別にみると、口腔機能の低下している高齢者は要支援者と総合事業対象者では5割以上となっており、総合事業対象者では61.5%となっています。

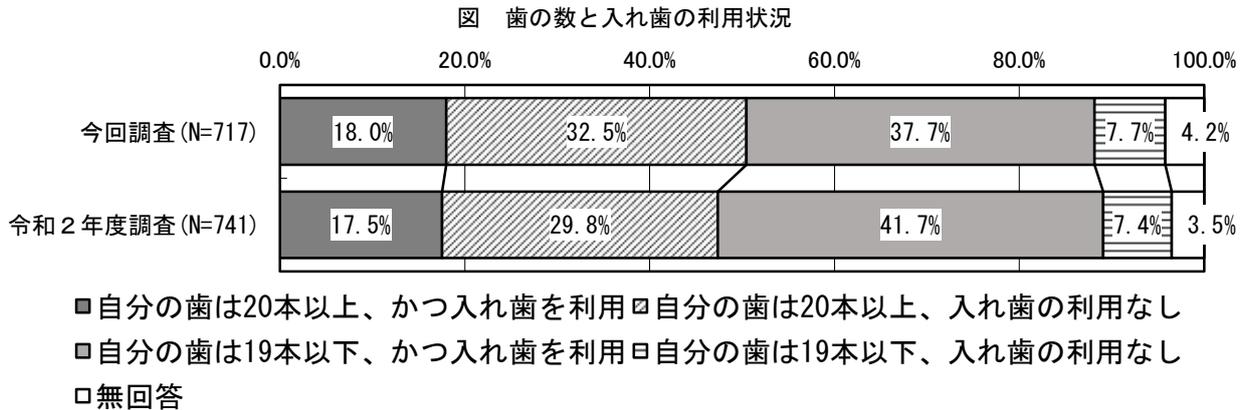


(3) 歯の数と入れ歯の利用状況

歯の数と入れ歯の利用状況についてみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(37.7%)が最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」(32.5%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(18.0%)となっています。

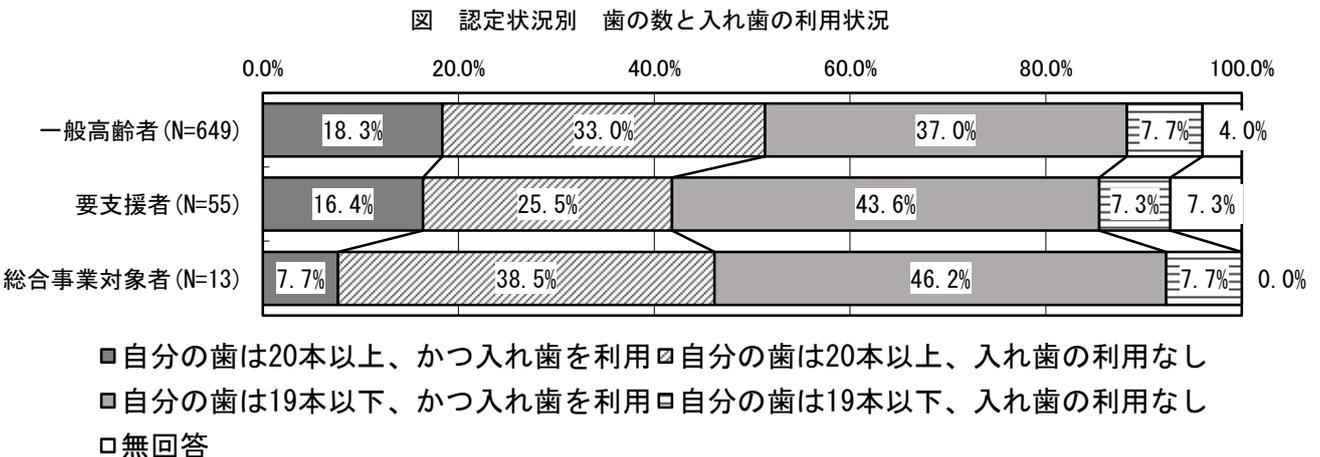
入れ歯を利用している方(「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の合計)は55.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



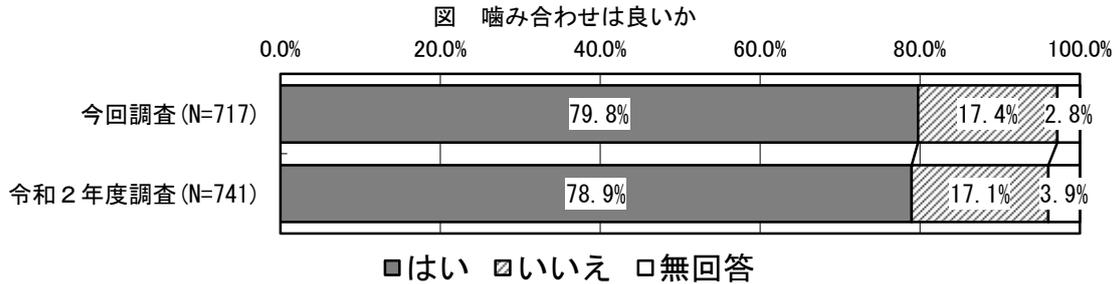
● 認定状況別

認定状況別にみると、入れ歯を利用している方はすべての認定状況で5割以上となっており、要支援者が60.0%で最も多くなっています。



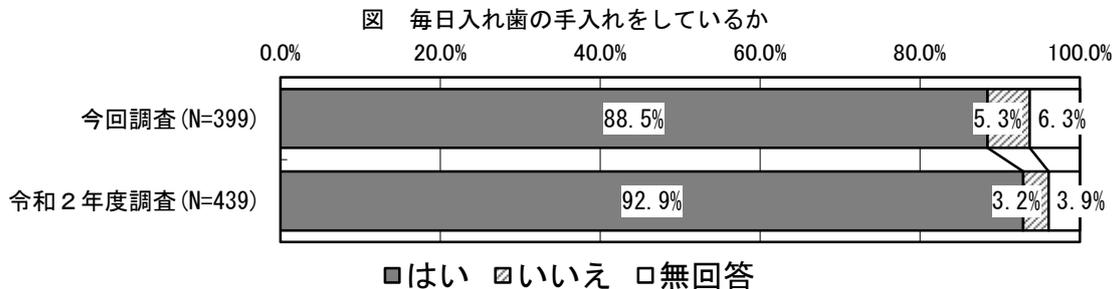
(4) 噛み合わせは良いか

噛み合わせは良いかをみると、「はい」が79.8%、「いいえ」が17.4%となっています。令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



(5) 毎日入れ歯の手入れをしているか

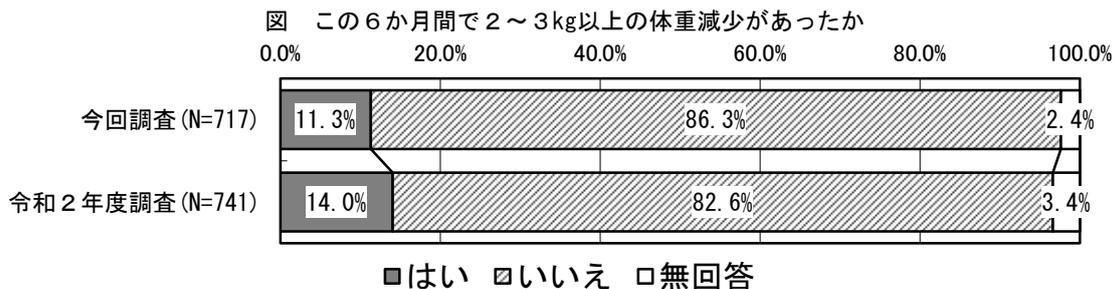
毎日入れ歯の手入れをしているかをみると、「はい」が88.5%、「いいえ」が5.3%となっています。令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



(6) この6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか

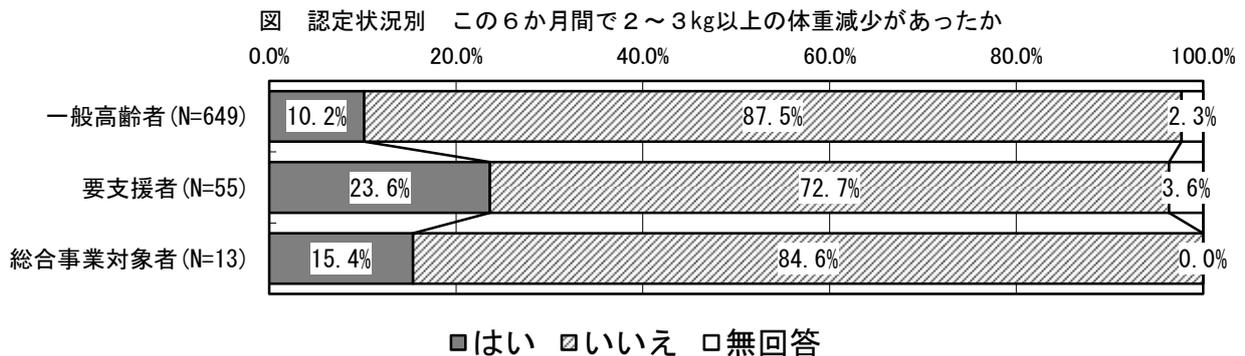
この6か月間の2～3kg以上の体重減少についてみると、「はい」が11.3%、「いいえ」が86.3%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

認定状況別にみると、この6か月間で2～3kg以上の体重減少がある方は要支援者が23.6%で最も多くなっています。

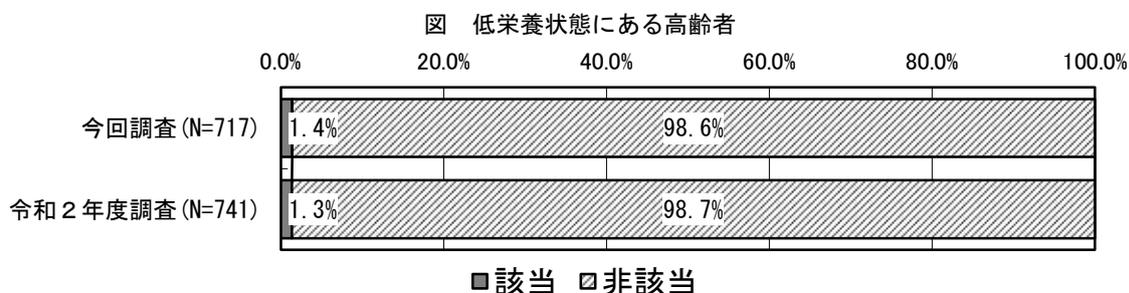


〈低栄養状態にある高齢者〉

身長・体重で「18.5未満（やせ）」であり、かつ、過去6か月間での体重減少のどちらにも該当する場合は、「低栄養状態にある高齢者」と判定します。

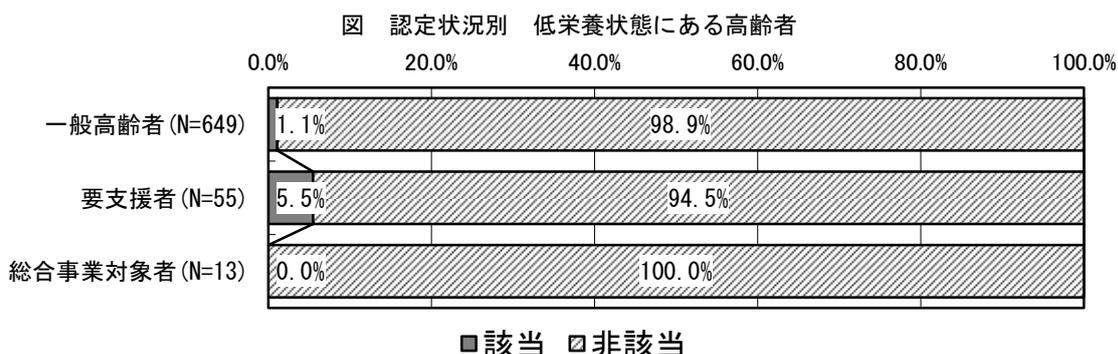
低栄養状態にある高齢者は1.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

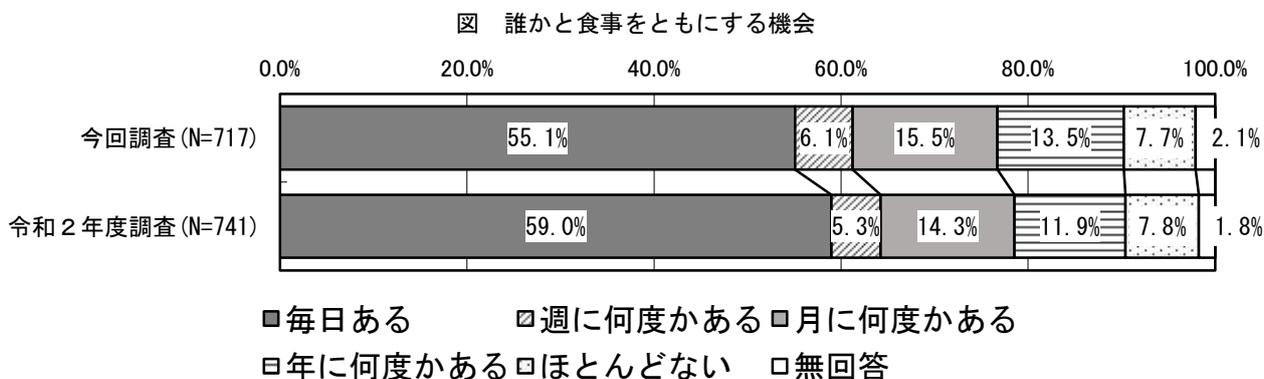
認定状況別にみると、低栄養状態にある高齢者は要支援者が5.5%で最も多くなっています。



(7) 誰かと食事をとる機会

誰かと食事をとる機会についてみると、「毎日ある」(55.1%)が最も多く、次いで「月に何度かある」(15.5%)、「年に何度かある」(13.5%)となっています。一方、「ほとんどない」は7.7%となっています。

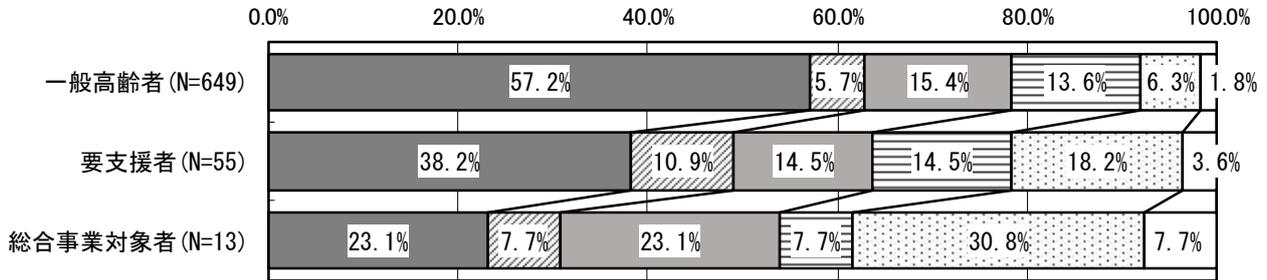
令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

認定状況別にみると、誰かと食事をとにもする機会が「ほとんどない」は総合事業対象者が 30.8%で最も多くなっています。

図 認定状況別 誰かと食事をとにもする機会

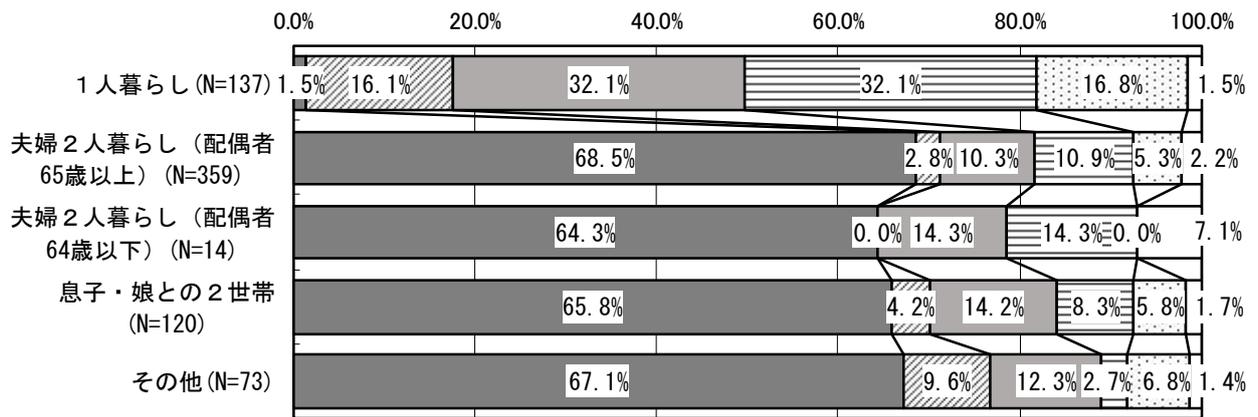


■毎日ある □週に何度かある □月に何度かある
 □年に何度かある □ほとんどない □無回答

● 世帯類型別

世帯類型別にみると、誰かと食事をとにもする機会が「ほとんどない」は1人暮らしが 16.8%で最も多くなっています。

図 世帯類型別 誰かと食事をとにもする機会



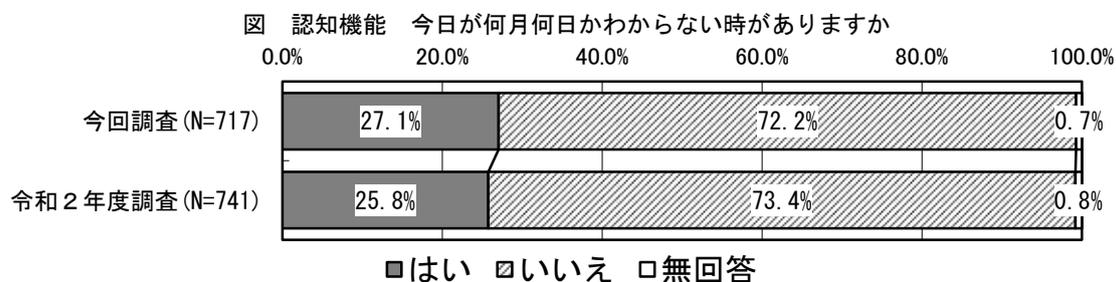
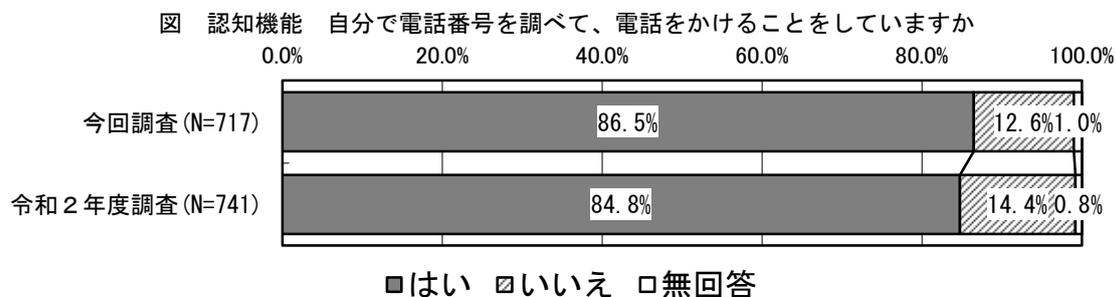
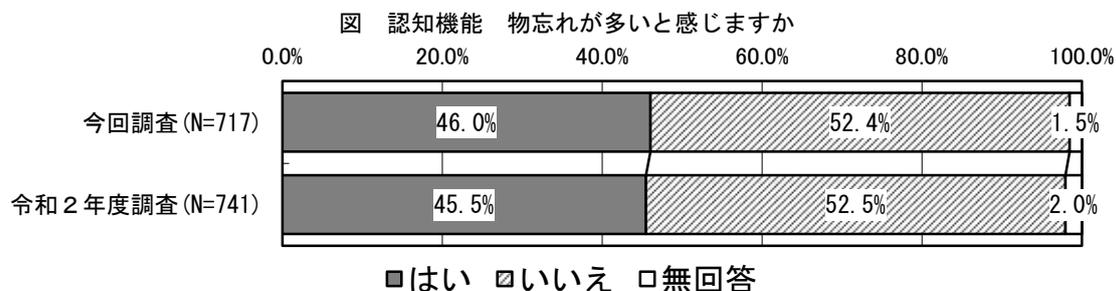
■毎日ある □週に何度かある □月に何度かある
 □年に何度かある □ほとんどない □無回答

5 毎日の生活について

(1) 認知機能

認知機能についてみると、「物忘れが多いと感じますか」と「今日が何月何日かわからない時がありますか」はどちらも「いいえ」が「はい」を上回っていますが、「物忘れが多いと感じますか」は「はい」が46.0%と5割近くを占めています。「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか」は「はい」が86.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

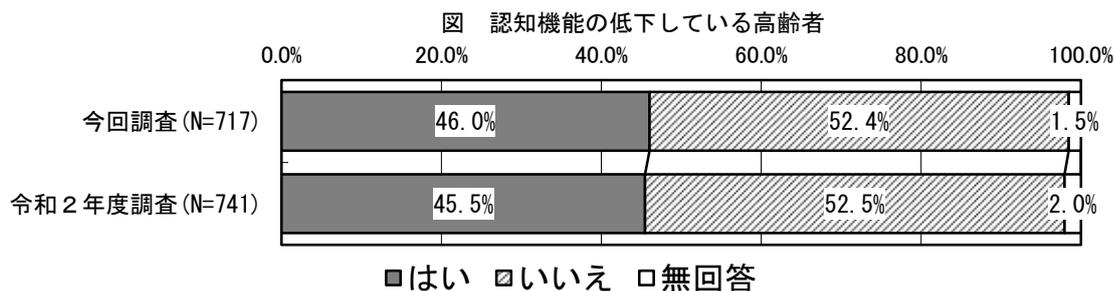


〈認知機能の低下〉

・「物忘れが多いと感じますか」に「はい」と回答した方を「認知機能の低下している高齢者」と判定します。

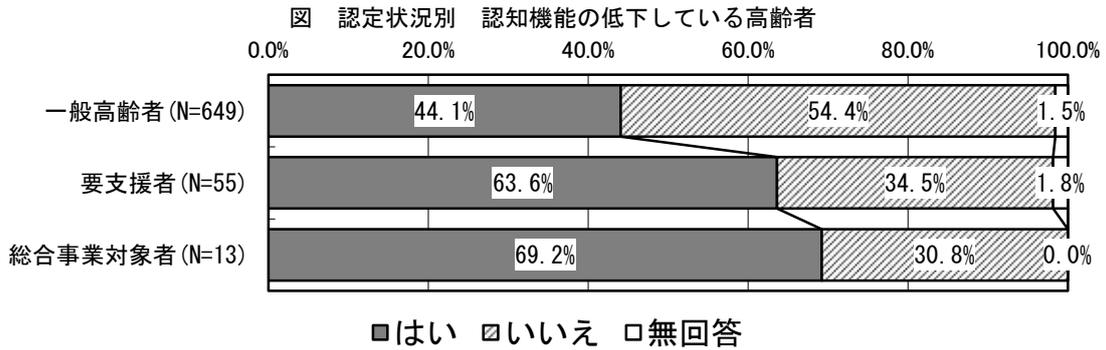
認知機能の低下している高齢者は46.0%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

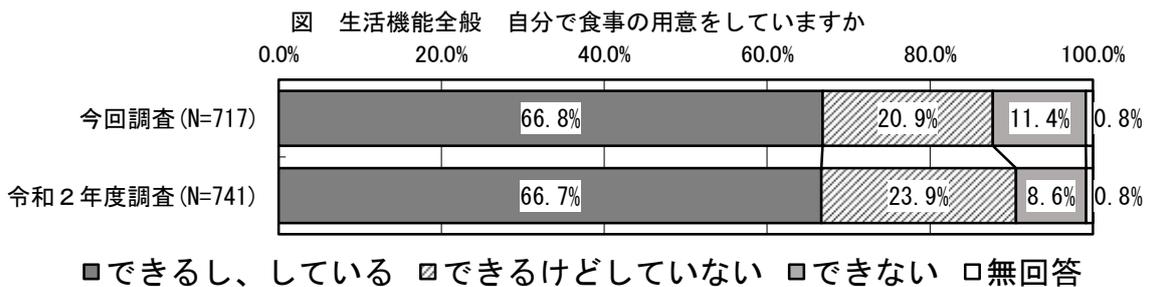
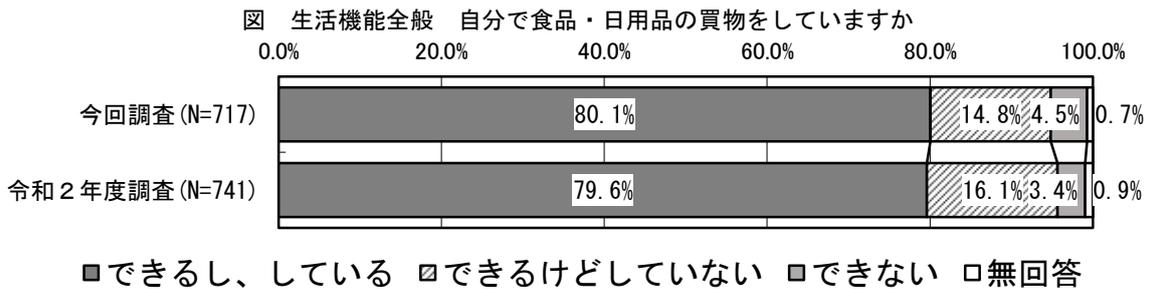
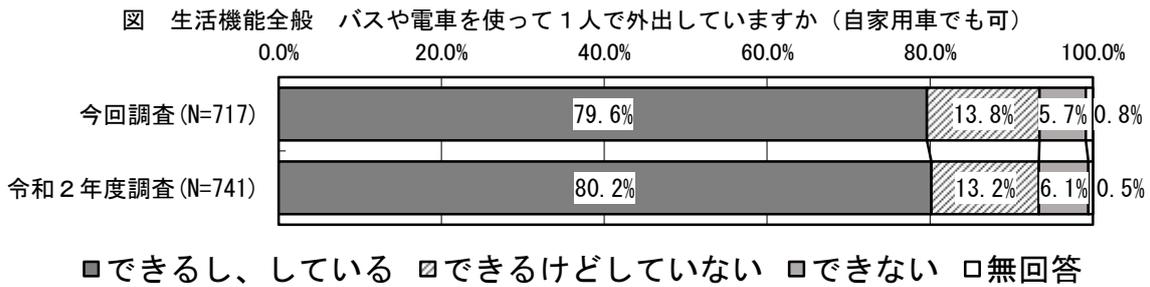
認定状況別にみると、認知機能の低下している高齢者は要支援者と総合事業対象者では6割以上となっており、総合事業対象者は69.2%と約7割を占めています。

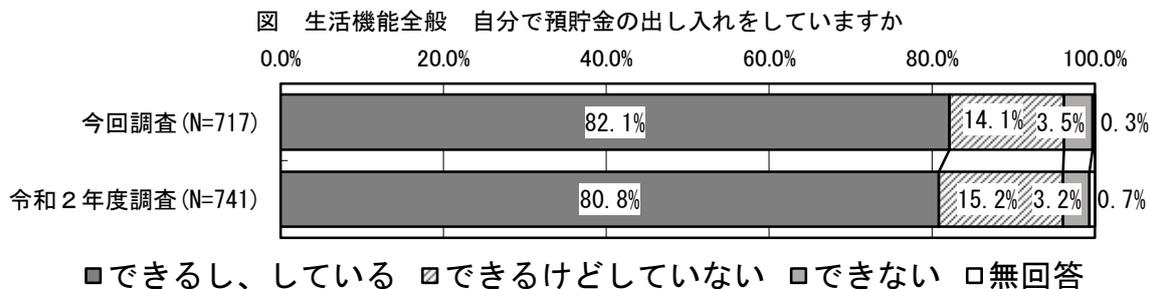
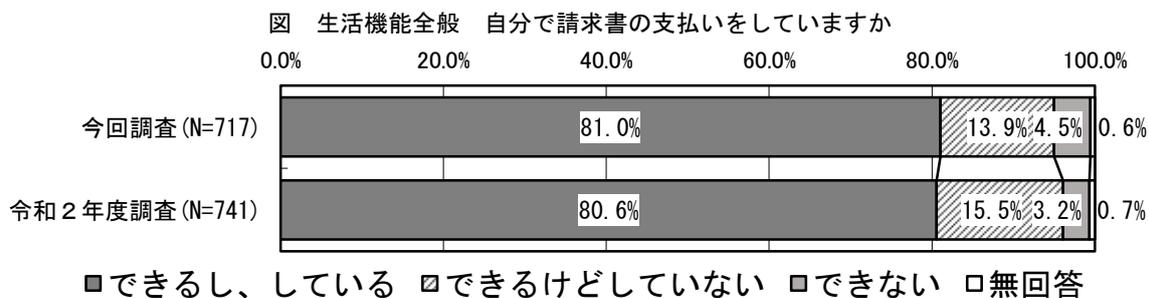


(2) 生活機能全般

生活機能全般についてみると、いずれの項目も「できるし、している」が6割以上となっており、「自分で食品・日用品の買物をしていますか」、「自分で請求書の支払いをしていますか」、「自分で預貯金の出し入れをしていますか」では8割以上となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。





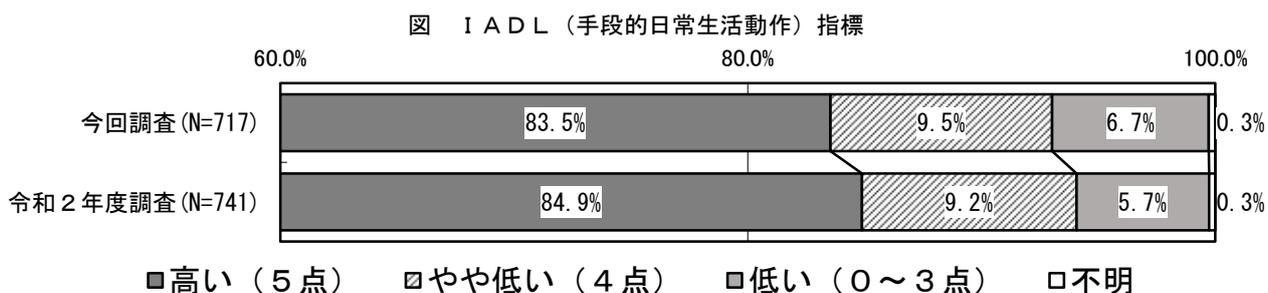
〈生活機能全般〉

・「生活機能全般」で「できるし、している」または「できるけどしていない」以上の選択肢をそれぞれ1点とした合計得点をIADL指標[※]とします。5点が最高点で、3点以下は健康リスク有りとされます。

※IADLとは手段的日常生活動作のことであり、買い物、調整、洗濯、電話、薬の管理、財産管理、乗り物等の日常生活上の複雑な動作をいいます。

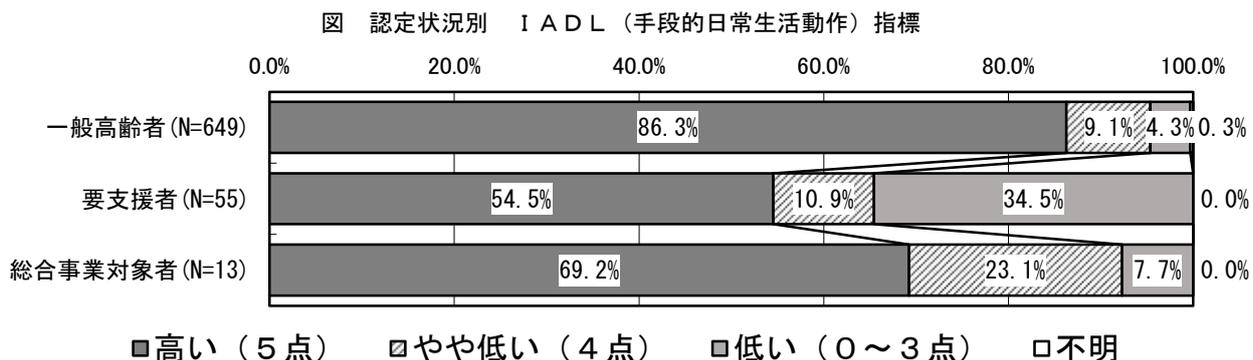
IADL（手段的日常生活動作）指標のうち、健康リスクがある（0～3点）高齢者は6.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

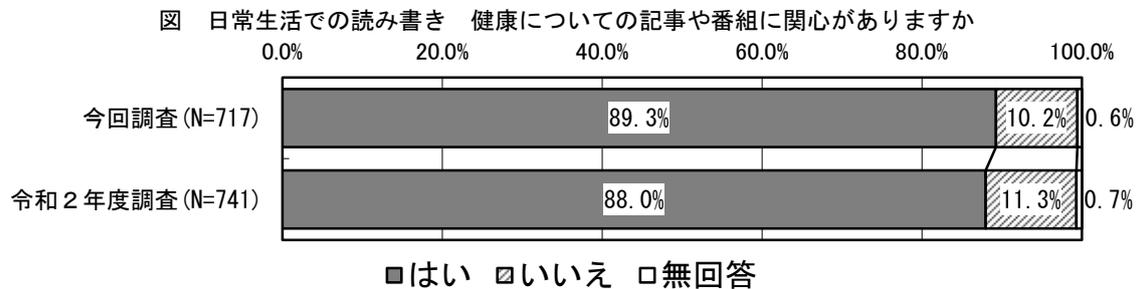
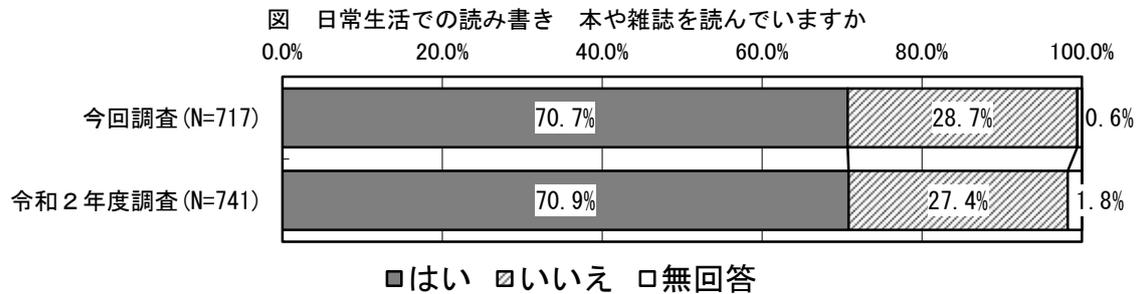
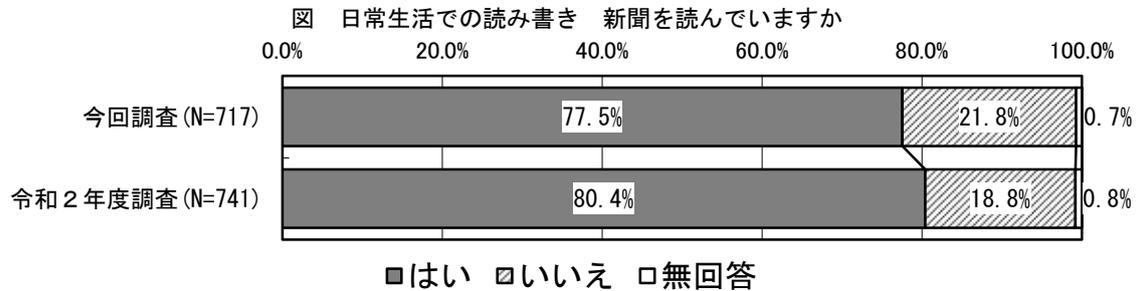
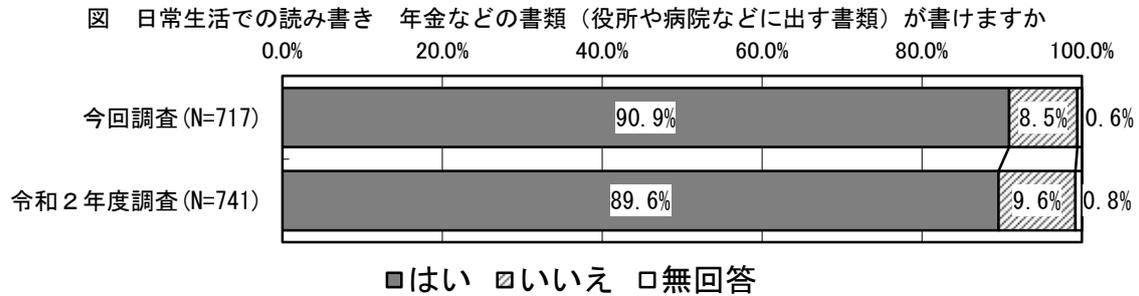
認定状況別にみると、健康リスクがある（0～3点）高齢者は要支援者が34.5%で最も多くなっています。



(3) 日常生活での読み書き

日常生活での読み書きについてみると、いずれの項目も「はい」が7割以上となっており、「年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか」と「健康についての記事や番組に関心がありますか」では9割近くを占めています。一方、「いいえ」は「本や雑誌を読んでいますか」が28.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



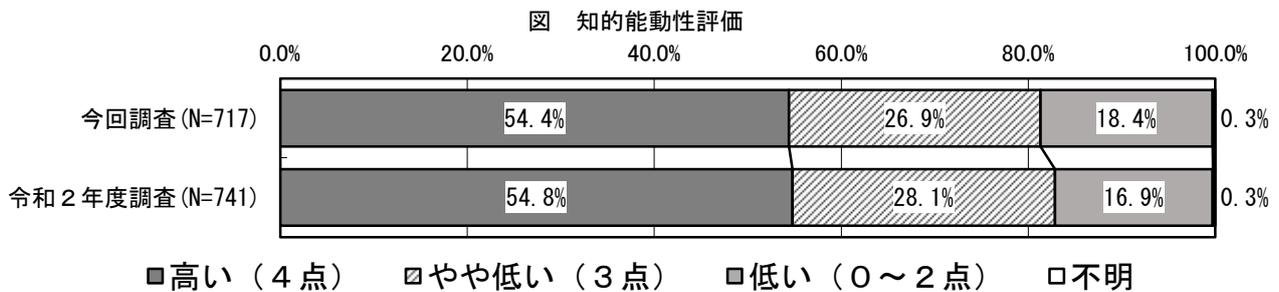
< 知的能動性評価 >

・日常生活での読み書きについての各設問に「はい」と回答した場合を1点として知的能動性[※]の指標とし、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」としています。

※知的能動性とは、余暇や創作など生活を楽しむ知的活動が可能な能力をいいます。

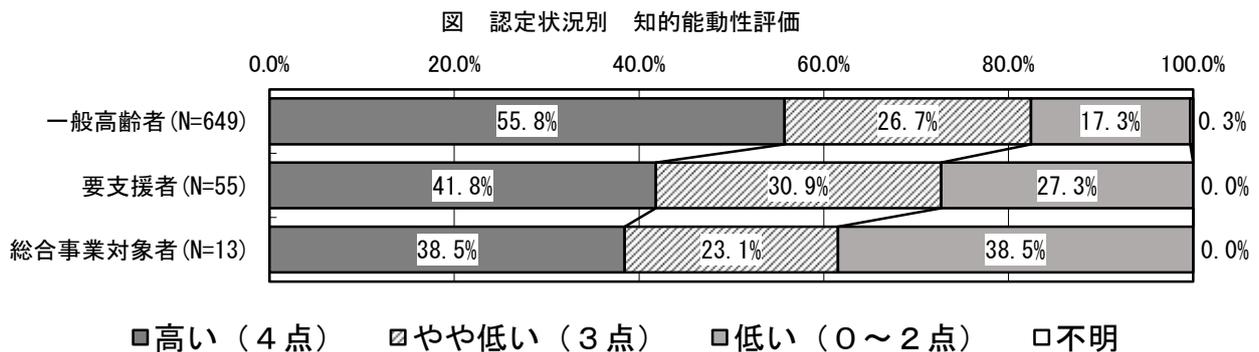
知的能動性評価のうち、「やや低い（3点）」は26.9%、「低い（0～2点）」は18.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

認定状況別にみると、「低い（0～2点）」は総合事業対象者が38.5%で最も多くなっています。



(4) 日常生活での他人との関わり

日常生活での他人との関わりについてみると、「はい」は「家族や友人の相談にのっていますか」、「病人を見舞うことができますか」、「若い人に自分から話しかけることがありますか」は7割以上となっており、「病人を見舞うことができますか」では83.7%となっています。一方、「いいえ」は「友人の家を訪ねていますか」が58.0%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

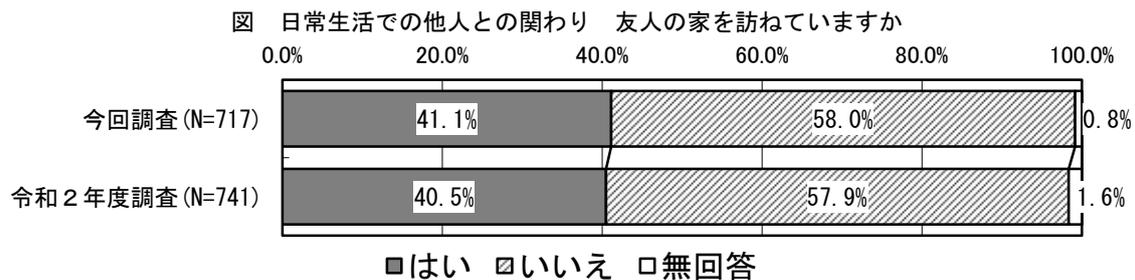


図 日常生活での他人との関わり 家族や友人の相談にのっていますか

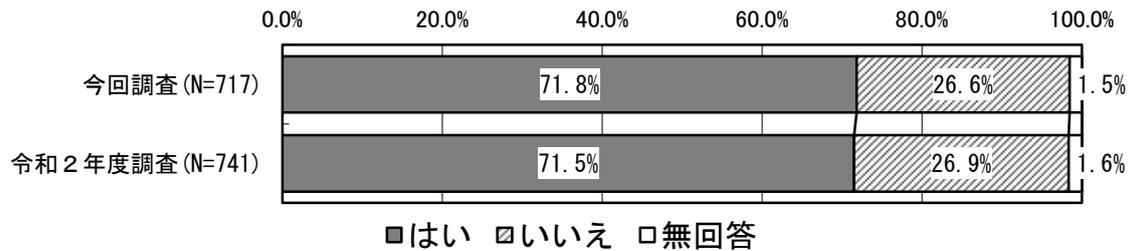


図 日常生活での他人との関わり 病人を見舞うことができますか

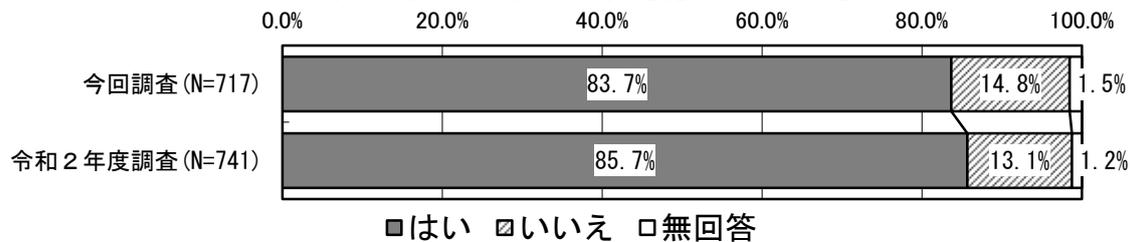
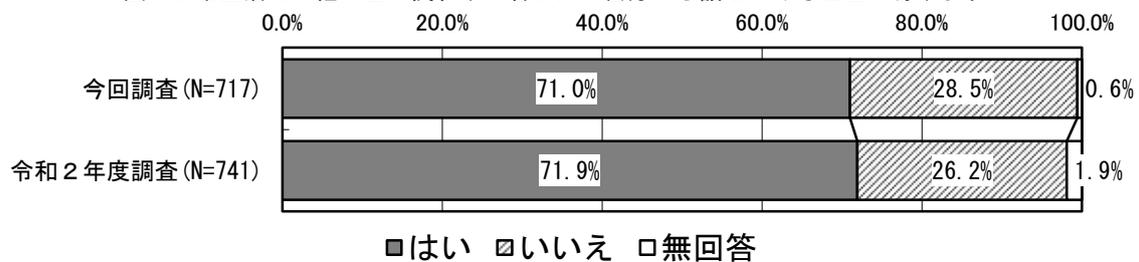


図 日常生活での他人との関わり 若い人に自分から話しかけることがありますか

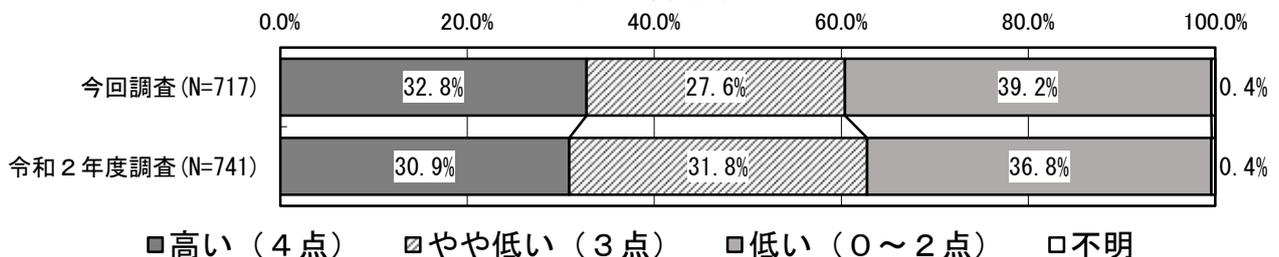


< 社会的役割評価 >

・日常生活での他人との関わりの各項目で「はい」の選択肢をそれぞれ1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」としています。
 ※地域で社会的な役割を果たす社会活動が可能な能力をいいます。

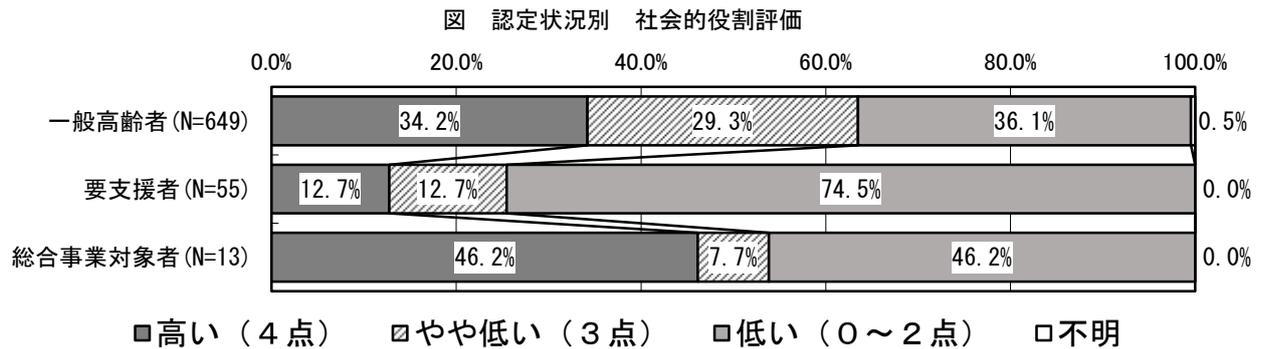
社会的役割評価が「やや低い（3点）」は 27.6%、「低い（0～2点）」は 39.2%となっています。
 令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

図 社会的役割評価



● 認定状況別

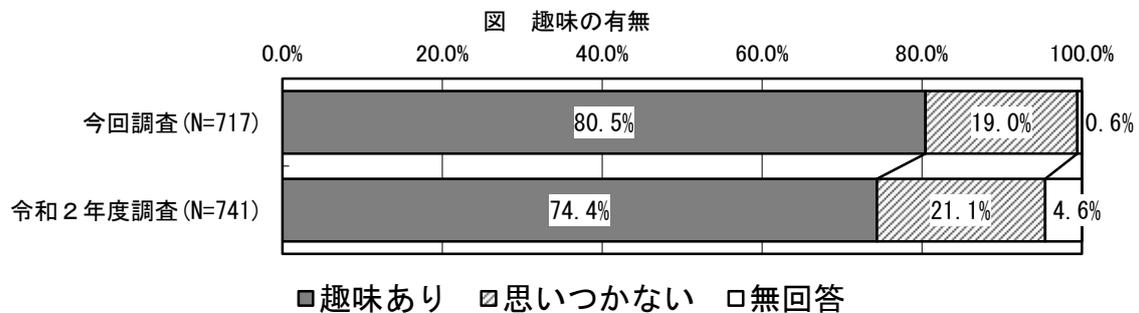
認定状況別にみると、「低い（0～2点）」は要支援者が74.5%で最も多くなっています。



(5) 趣味や生きがいの有無

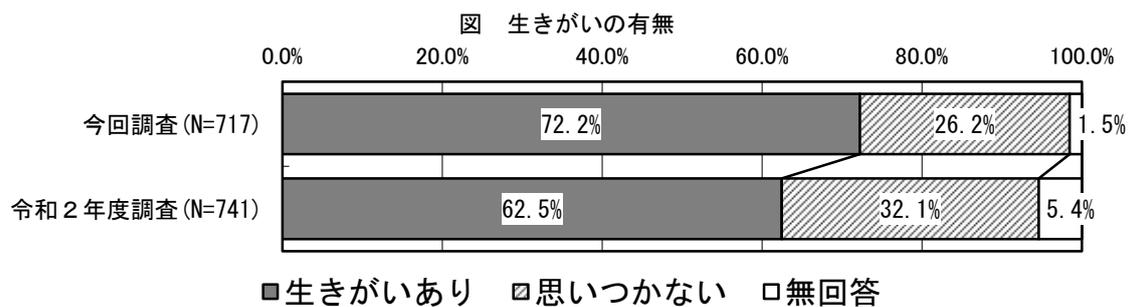
趣味の有無についてみると、「趣味あり」は80.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「趣味あり」は6.1ポイント多くなっています。



生きがいの有無についてみると、「生きがいあり」は72.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「生きがいあり」は9.7ポイント多くなっています。



6 地域での活動について

(1) 社会参加

地域での活動の参加状況についてみると、「週4回以上」は収入のある仕事が6.3%、「週2～3回」はスポーツ関係のグループやクラブが13.5%、「週1回」は(いきいき百歳体操など)介護予防のための通いの場が6.7%、「月1～3回」は趣味関係のグループが13.0%、「年に数回」は町内会・自治会が20.1%となっています。一方、「参加していない」はボランティアのグループ、学習・教養サークル、(いきいき百歳体操など)介護予防のための通いの場、老人クラブ、収入のある仕事がそれぞれ6割以上となっています。

令和2年度調査と比較すると、すべての活動で「参加していない」が増加し、老人クラブは7.6ポイント多くなっています。

図 社会参加

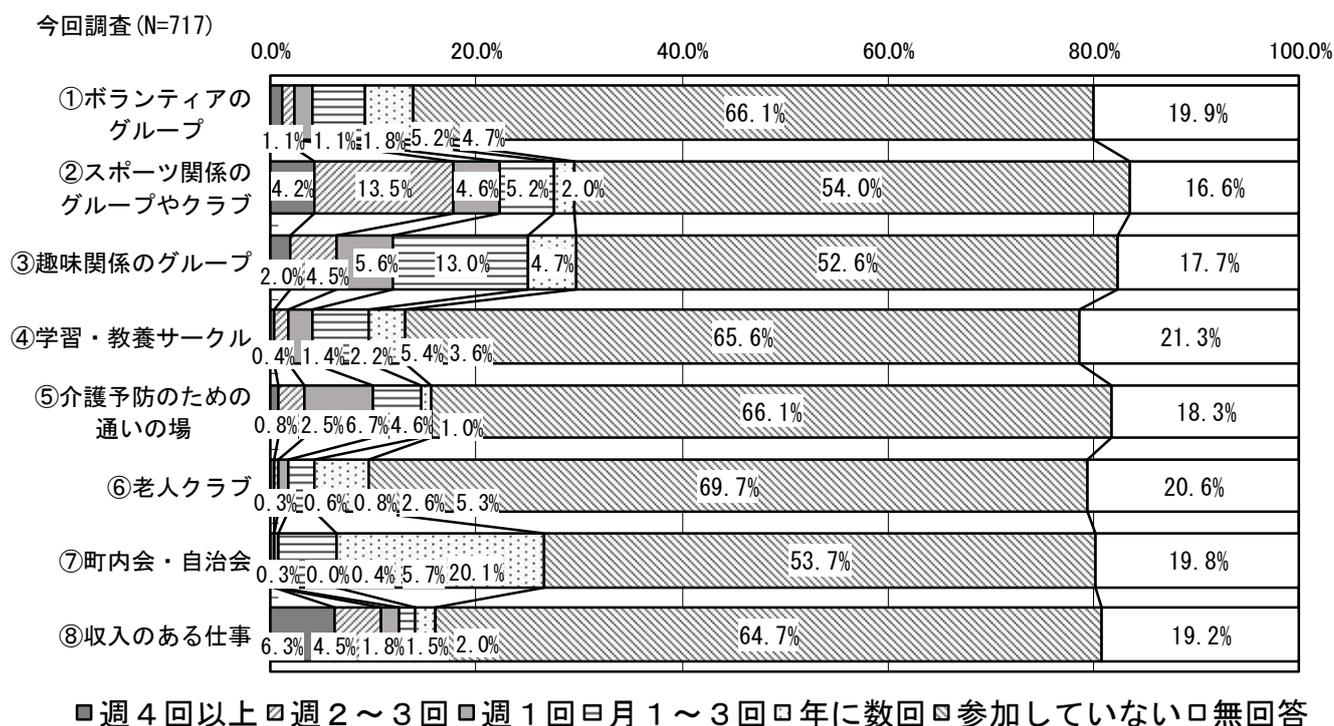
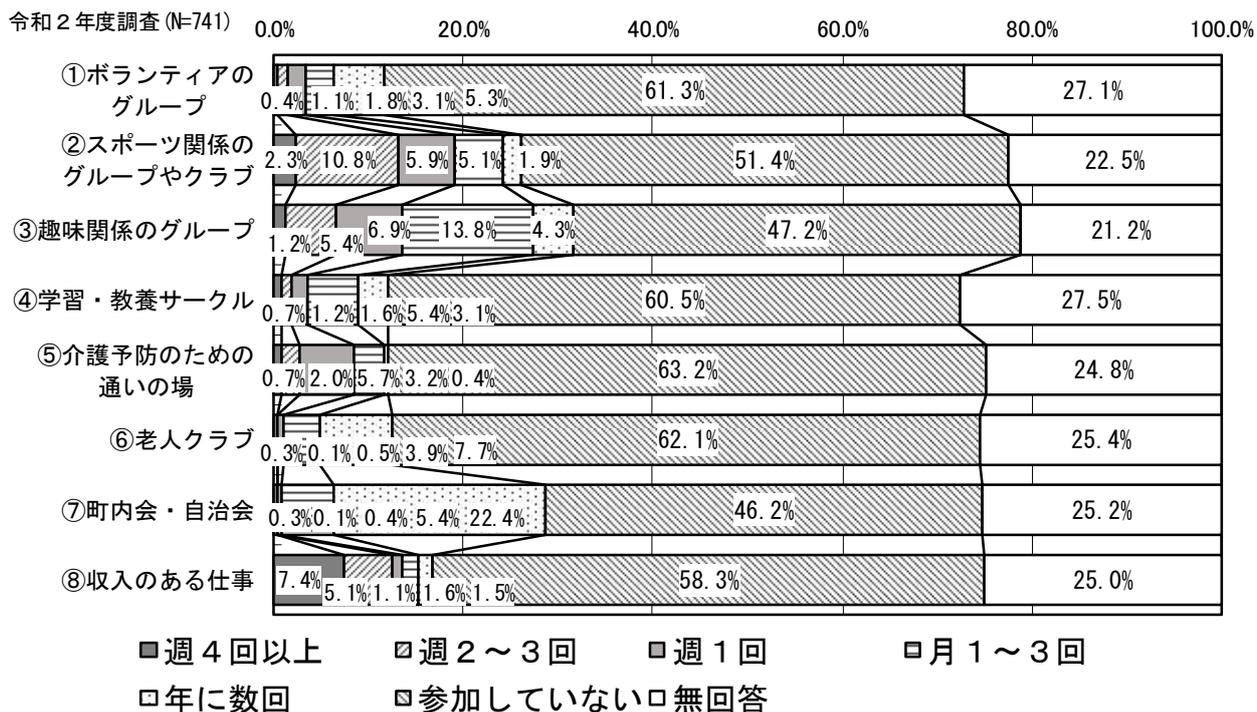


図 社会参加（前回）



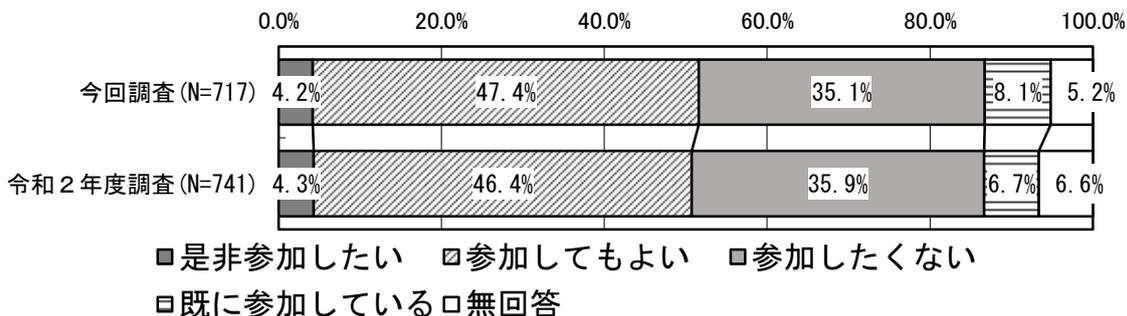
（2）地域住民によるグループ活動への参加意向

①参加者としての参加意向

地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向についてみると、「参加してもよい」（47.4%）が最も多く、次いで「参加したくない」（35.1%）、「既に参加している」（8.1%）となっています。参加意向がある方（「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計）は51.6%となっています。

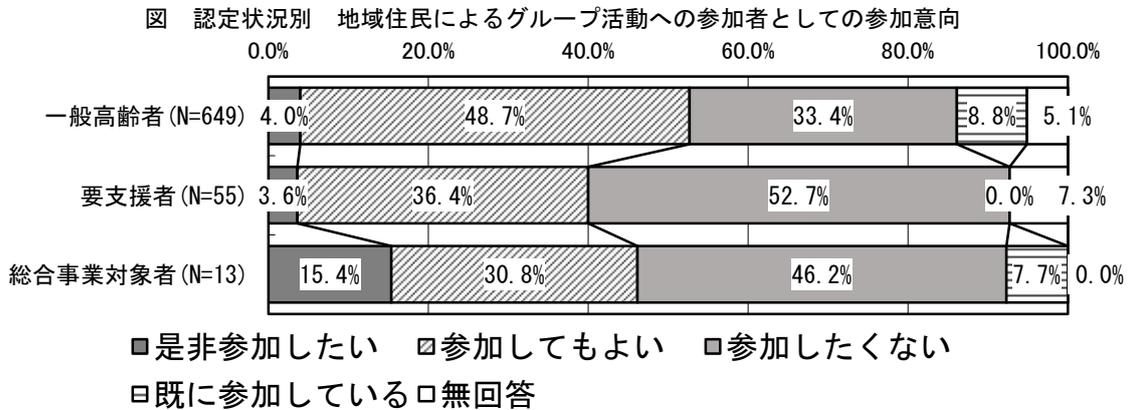
令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

図 地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向



● 認定状況別

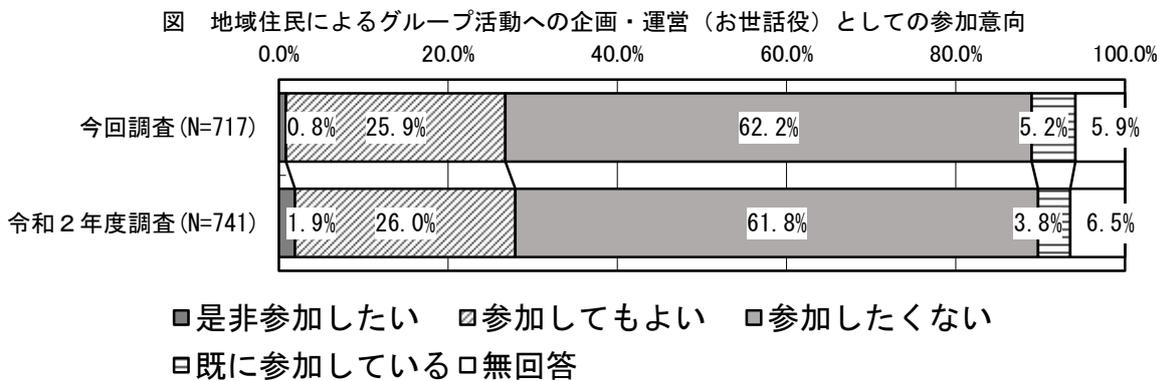
認定状況別にみると、地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向がある方は一般高齢者が 52.7%で最も多くなっています。また、「是非参加したい」は総合事業対象者が 15.4%となっています。



②企画・運営（お世話役）としての参加意向

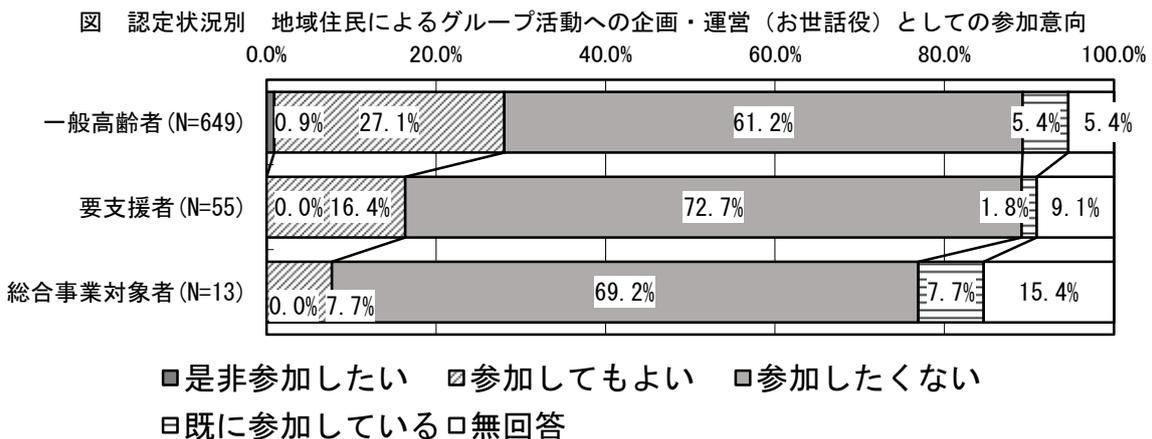
地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向についてみると、「参加したくない」（62.2%）が最も多く、次いで「参加してもよい」（25.9%）、「既に参加している」（5.2%）となっています。参加意向がある方（「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計）は 26.7%となっており、参加者としての参加意向に比べ少なくなっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

認定状況別にみると、地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向がある方は一般高齢者が 28.0%で最も多くなっています。

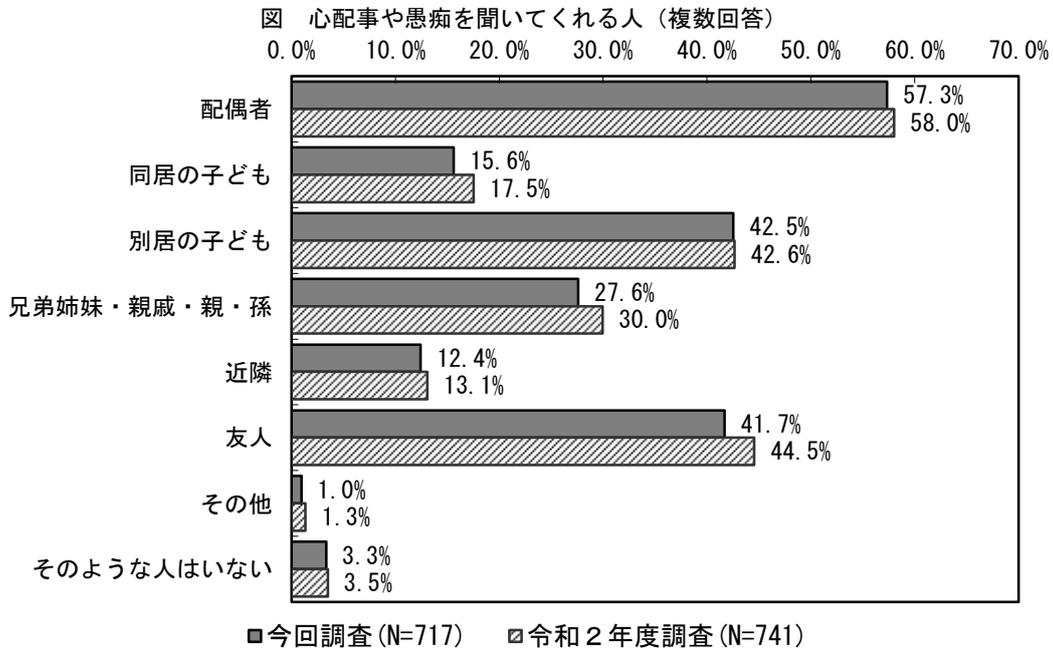


7 たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

心配事や愚痴を聞いてくれる人についてみると、「配偶者」(57.3%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(42.5%)、「友人」(41.7%)となっています。

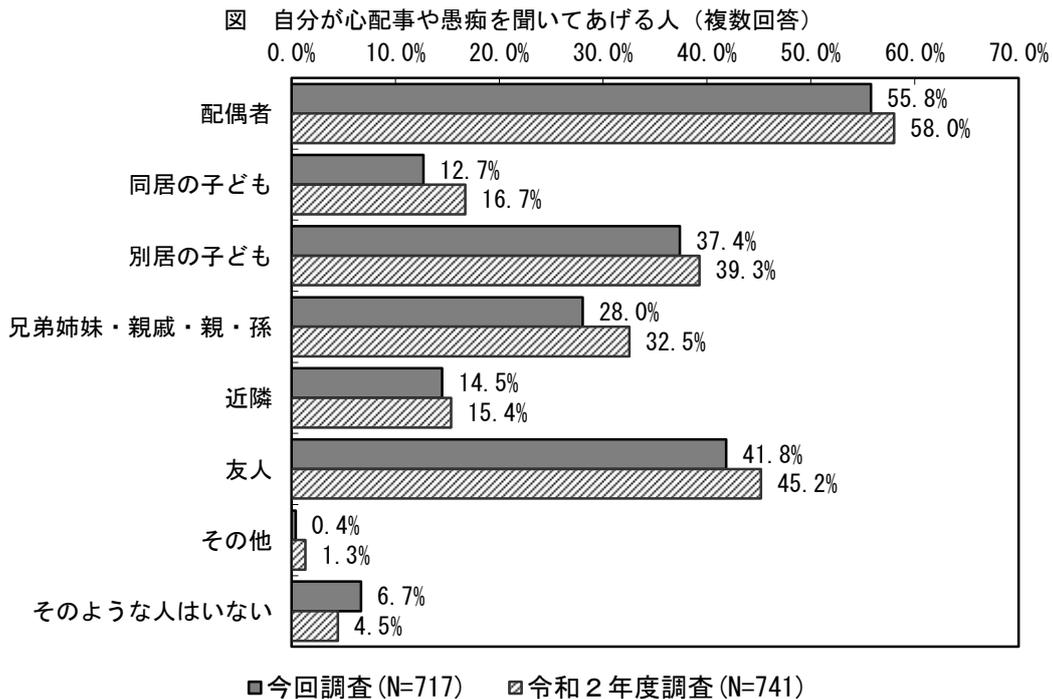
令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



(2) 自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人

自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人についてみると、「配偶者」(55.8%)が最も多く、次いで「友人」(41.8%)、「別居の子ども」(37.4%)となっています。

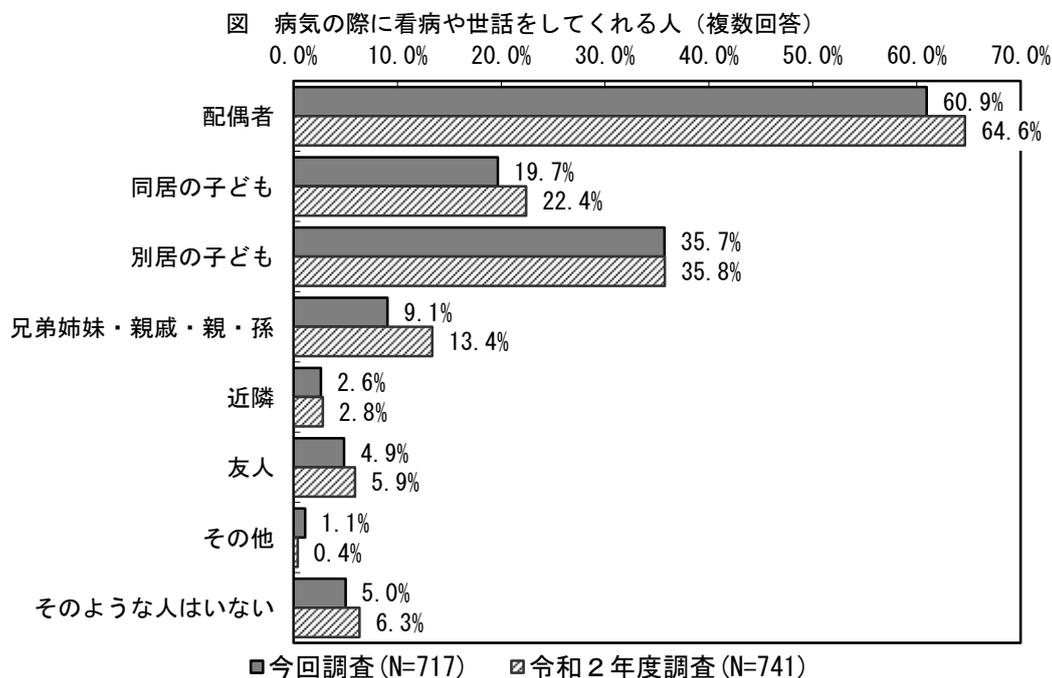
令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



(3) 病気の際に看病や世話をしてくれる人

病気の際に看病や世話をしてくれる人についてみると、「配偶者」(60.9%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(35.7%)、「同居の子ども」(19.7%)となっています。

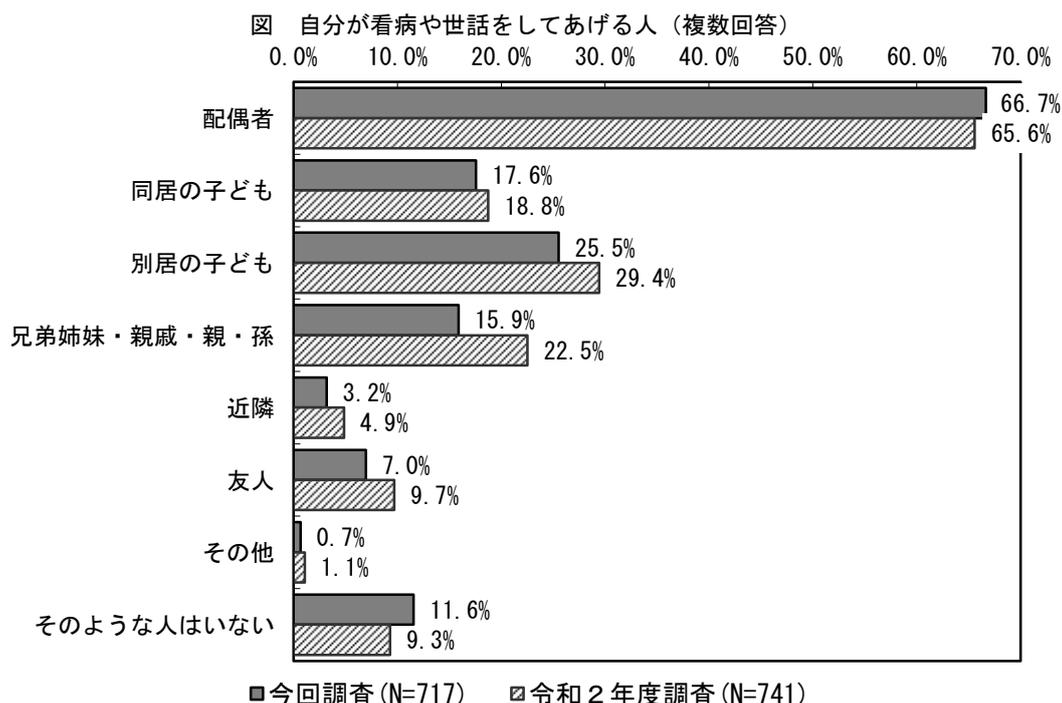
令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



(4) 自分が看病や世話をしてあげる人

自分が看病や世話をしてあげる人についてみると、「配偶者」(66.7%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(25.5%)、「同居の子ども」(17.6%)となっています。

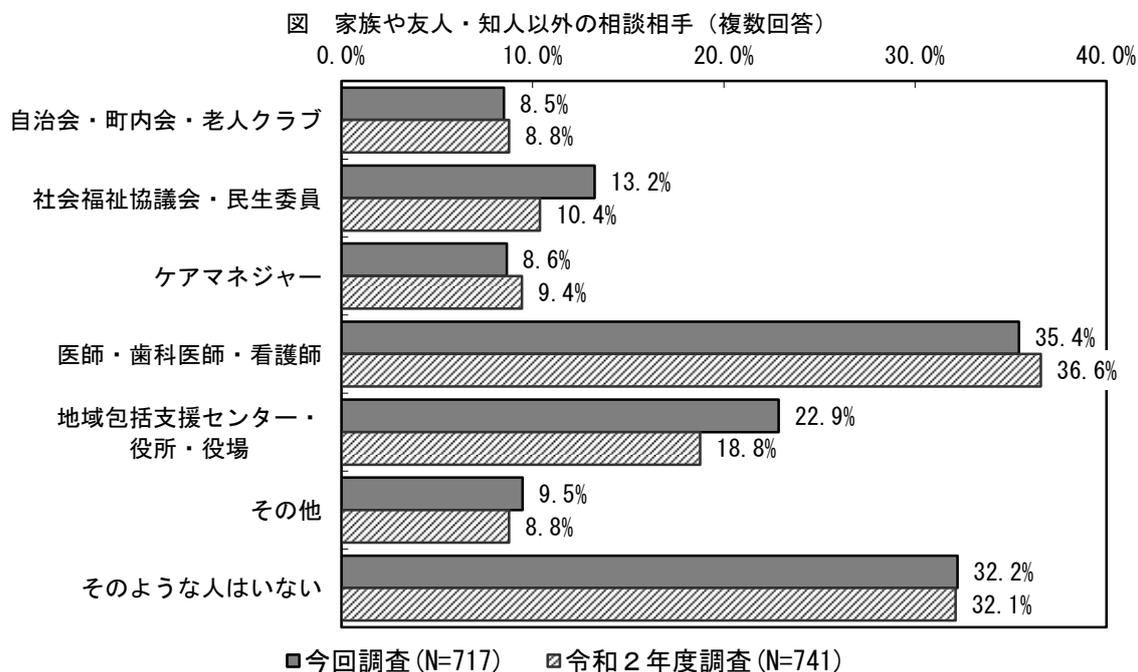
令和2年度調査と比較すると、上位2項目の順位は同じ結果ですが、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」は6.6ポイント少なくなっています。



(5) 家族や友人・知人以外の相談相手

「医師・歯科医師・看護師」(35.4%)が最も多く、次いで「そのような人はいない」(32.2%)、「地域包括支援センター・役所・役場」(22.9%)となっています。

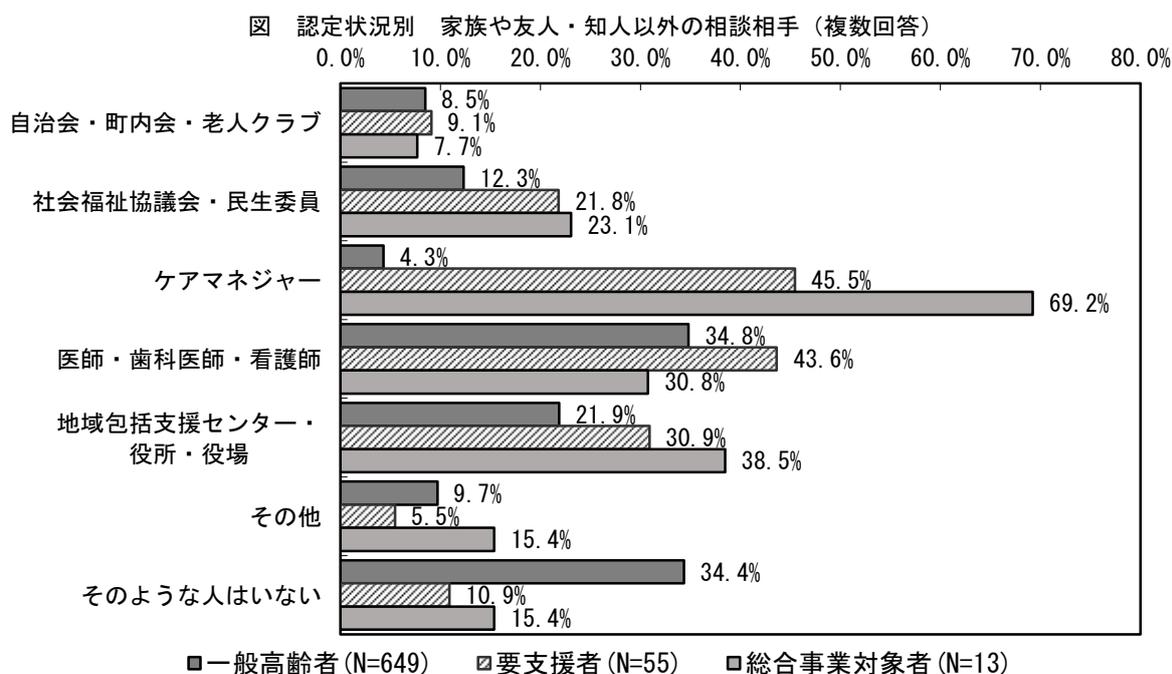
令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

認定状況別にみると、「そのような人はいない」は一般高齢者が34.4%で最も多くなっています。

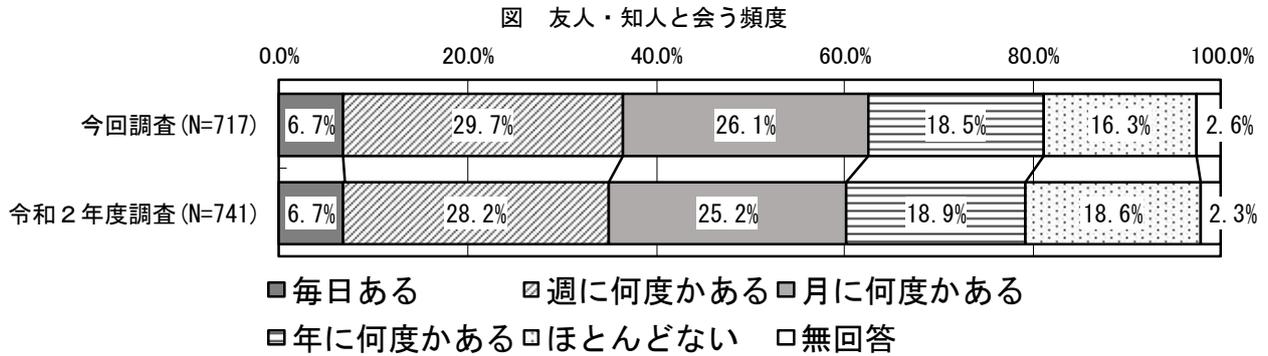
要支援者と総合事業対象者では「ケアマネジャー」が最も多く、「地域包括支援センター・役所・役場」も一般高齢者に比べ10ポイント以上多くなっています。



(6) 友人・知人と会う頻度

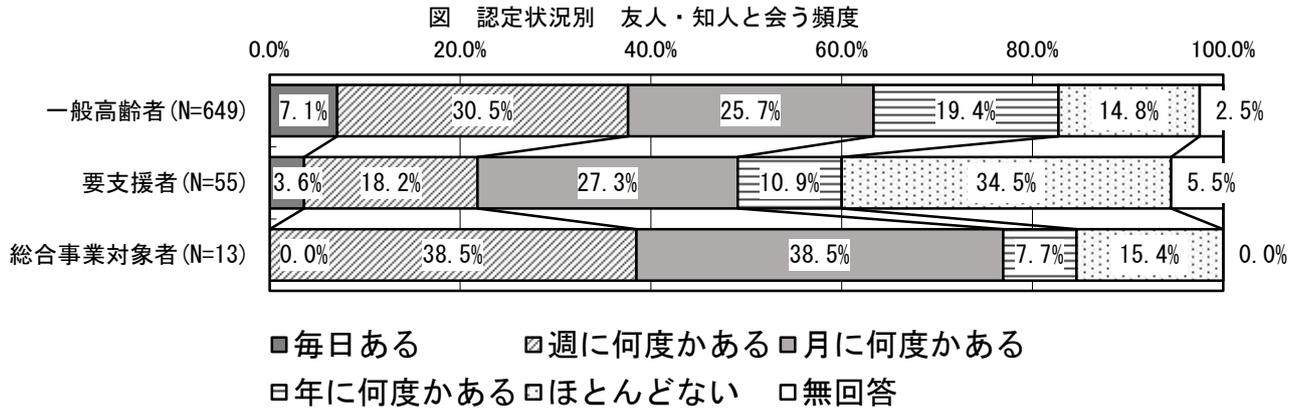
友人・知人と会う頻度についてみると、「週に何度かある」(29.7%)が最も多く、次いで「月に何度かある」(26.1%)、「年に何度かある」(18.5%)となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

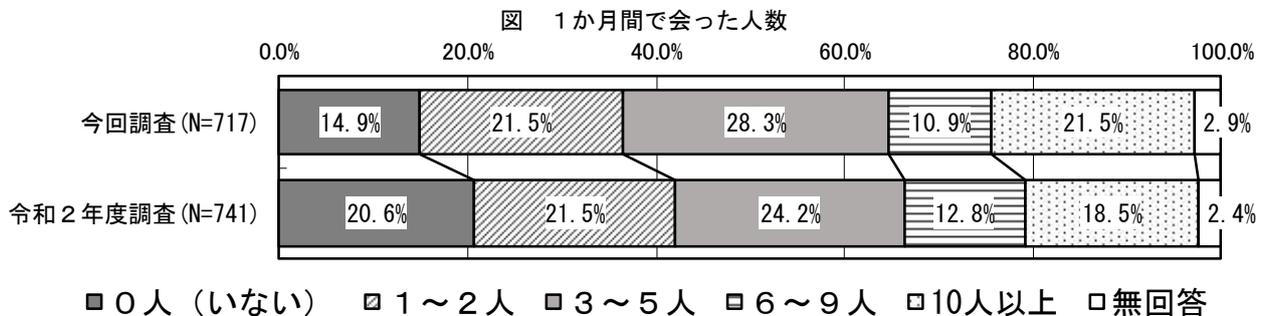
認定状況別にみると、「ほとんどない」は要支援者が34.5%で最も多くなっています。



(7) 1か月間で会った人数

1か月間で会った人数についてみると、「3～5人」(28.3%)が最も多く、次いで「1～2人」(21.5%)と「10人以上」(21.5%)となっています。

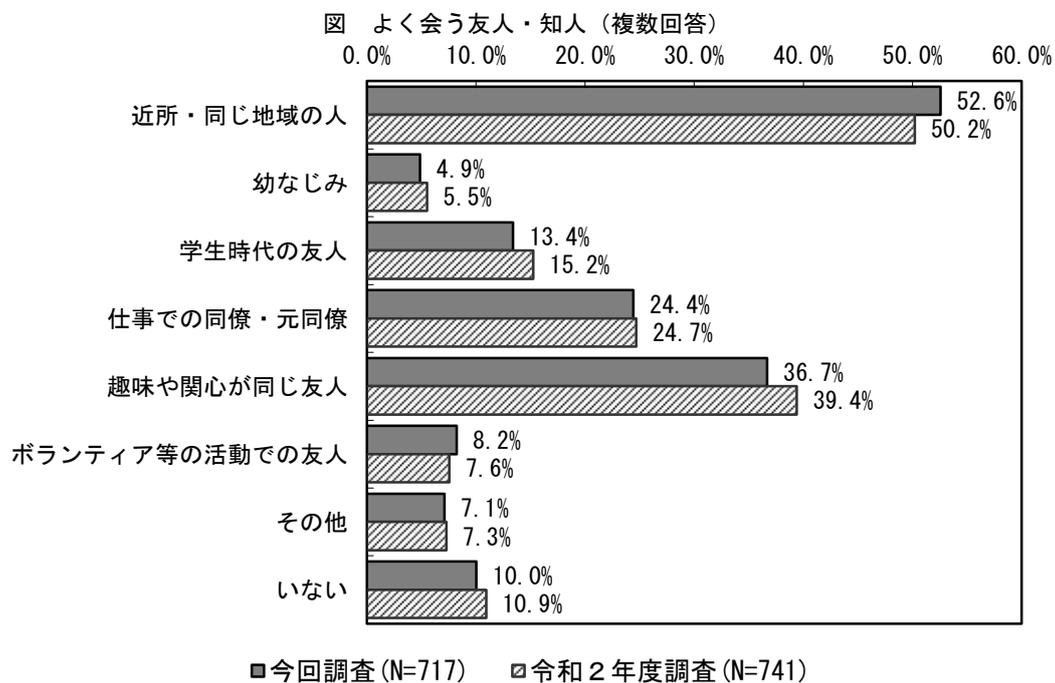
令和2年度調査と比較すると、「0人(いない)」は5.7ポイント少なくなっています。



(8) よく会う友人・知人

よく会う友人・知人についてみると、「近所・同じ地域の人」(52.6%)が最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(36.7%)、「仕事での同僚・元同僚」(24.4%)となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

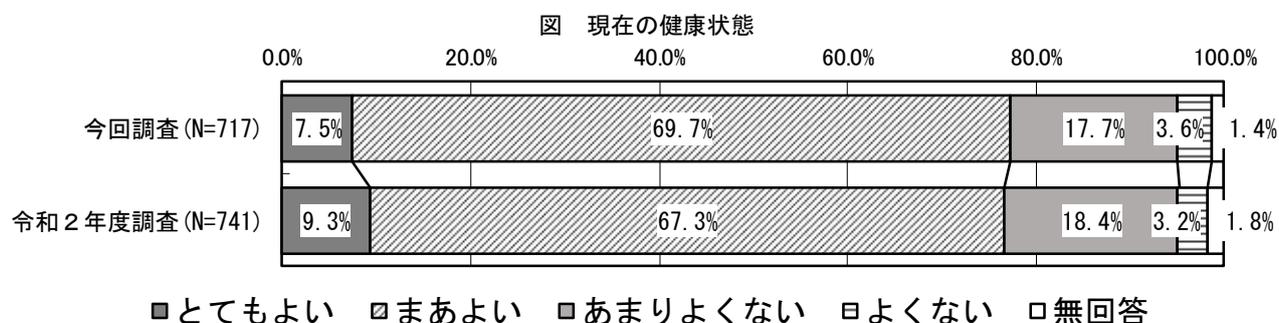


8 健康について

(1) 現在の健康状態

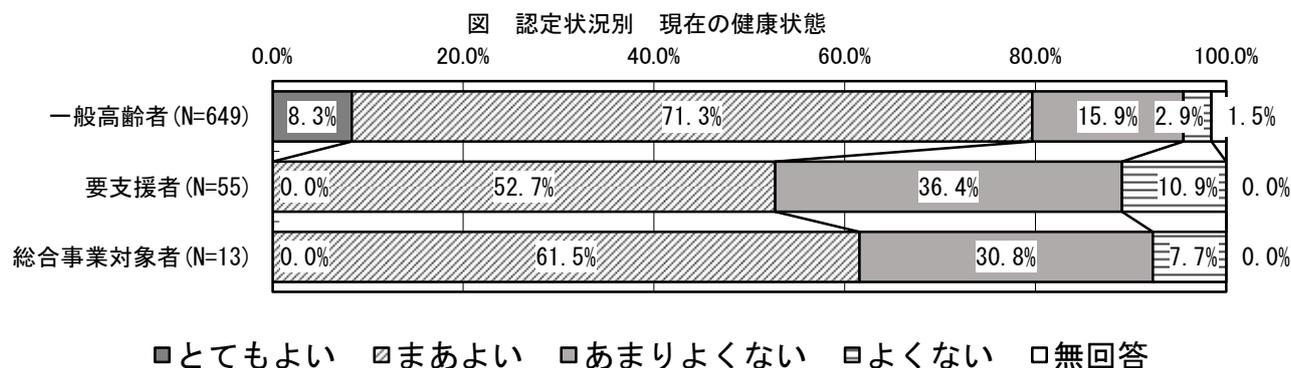
現在の健康状態についてみると、「まあよい」(69.7%)が最も多く、次いで「あまりよくない」(17.7%)、「とてもよい」(7.5%)となっています。現在の健康状態がよい方(「とてもよい」と「まあよい」の合計)は77.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

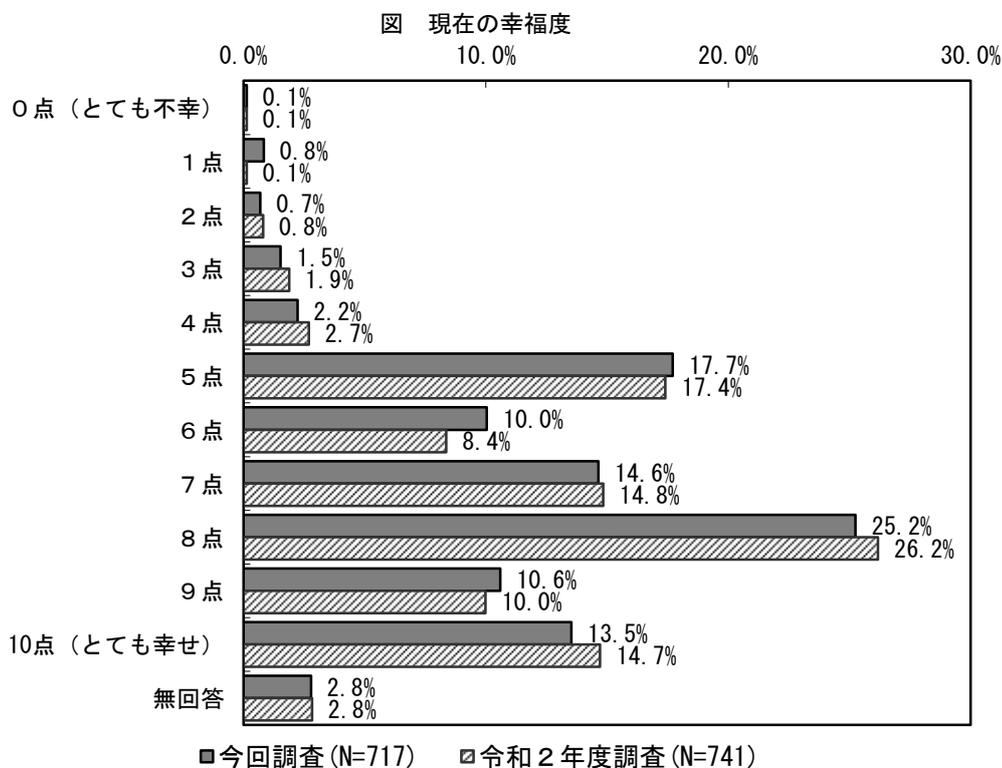
認定状況別にみると、現在の健康状態がよい方は一般高齢者が79.6%で最も多くなっています。要支援者と総合事業者でも健康状態がよい方が5割以上いますが「とてもよい」と回答する人は0.0%となっており、「よくない」が約1割を占めています。



(2) 現在の幸福度

現在の幸福度についてみると、「8点」(25.2%)が最も多く、次いで「5点」(17.7%)、「7点」(14.6%)となっています。また、8点以上の方が約5割となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 現在の幸福度 (平均値)

幸福度の平均値は全体では7.20点となっています。

認定状況別では総合事業対象者(6.77点)が一般高齢者(7.22点)より0.45点低く、全体の平均値より0.43点低くなっています。

世帯構成別では、夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(7.37点)が最も高く、1人暮らし(6.81点)、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(7.07点)は全体の平均値より低くなっています。

表 現在の幸福度 (平均値)

単位：平均値 (点)

		件数	平均値
全体		697	7.20
認定状況	一般高齢者	632	7.22
	要支援者	52	6.98
	総合事業対象者	13	6.77
	その他		
世帯構成	1人暮らし	134	6.81
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	350	7.37
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	14	7.07
	息子・娘との2世帯	117	7.28
	その他	70	6.83

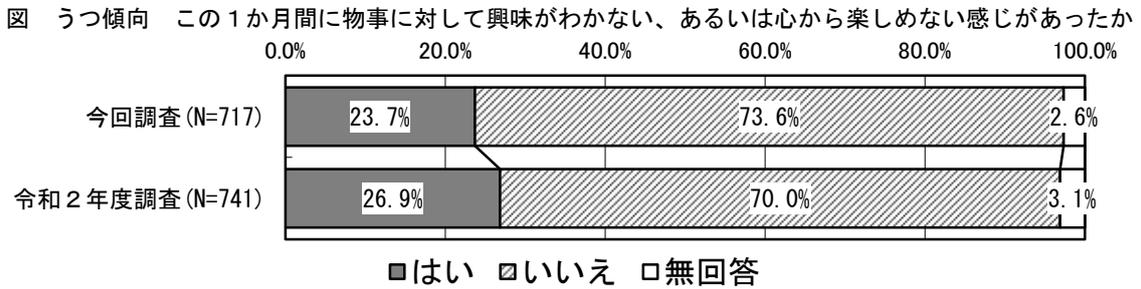
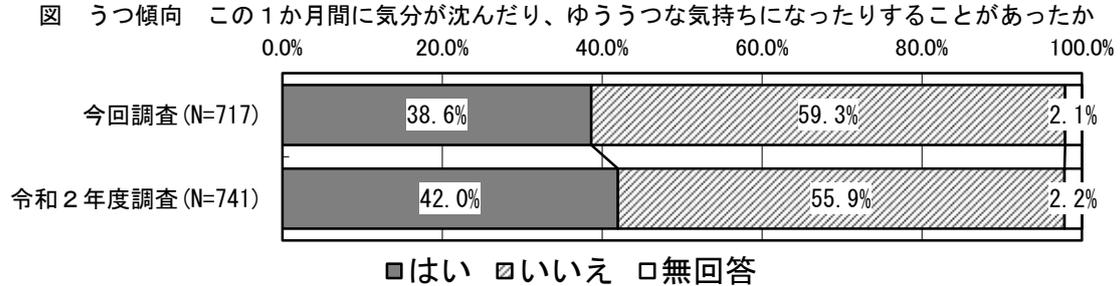
※無回答を除く件数で算出

(3) うつ傾向

この1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかをみると、「いいえ」が59.3%、「はい」が38.6%となっています。

この1か月間に物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがあったかをみると、「いいえ」が73.6%、「はい」が23.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

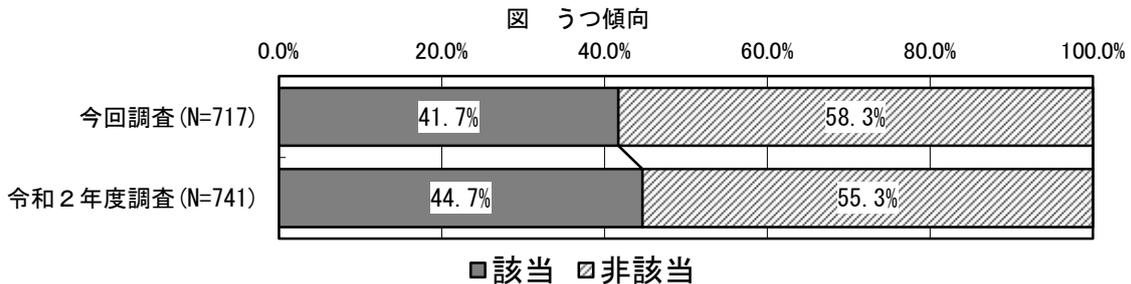


〈うつ傾向〉

・「この1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか」または「この1か月間に物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがあった」かで「はい」と回答した方を、「うつ傾向あり」と判定します。

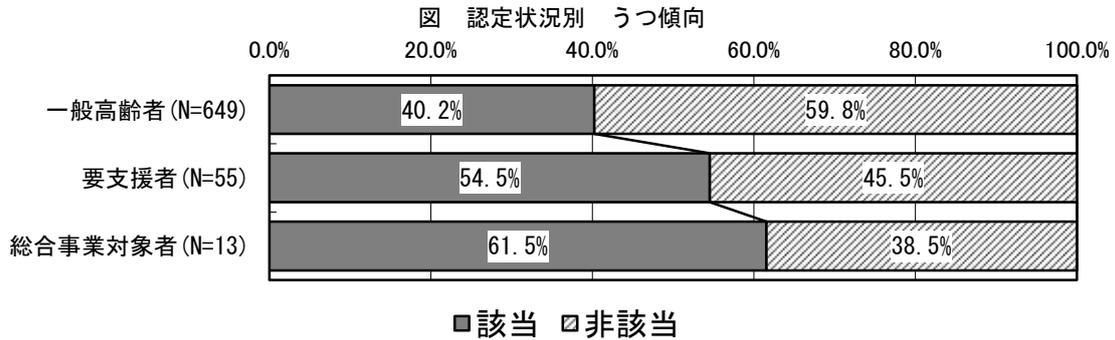
うつ傾向がある高齢者は41.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

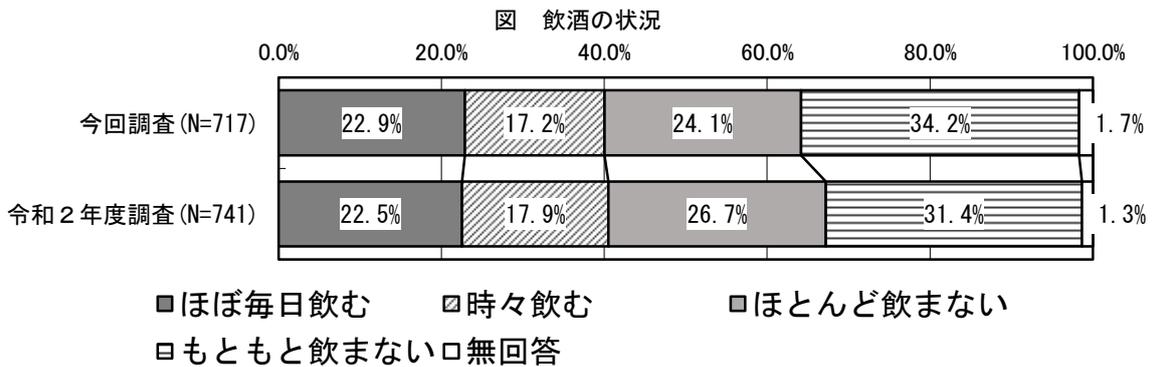
認定状況別にみると、うつ傾向がある高齢者は総合事業対象者では5割以上を占めており、総合事業対象者では61.5%となっています。



(4) 飲酒の状況

飲酒の状況についてみると、「もともと飲まない」(34.2%)が最も多く、次いで「ほとんど飲まない」(24.1%)、「ほぼ毎日飲む」(22.9%)となっています。飲酒習慣がある方(「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」の合計)は40.1%となっています。

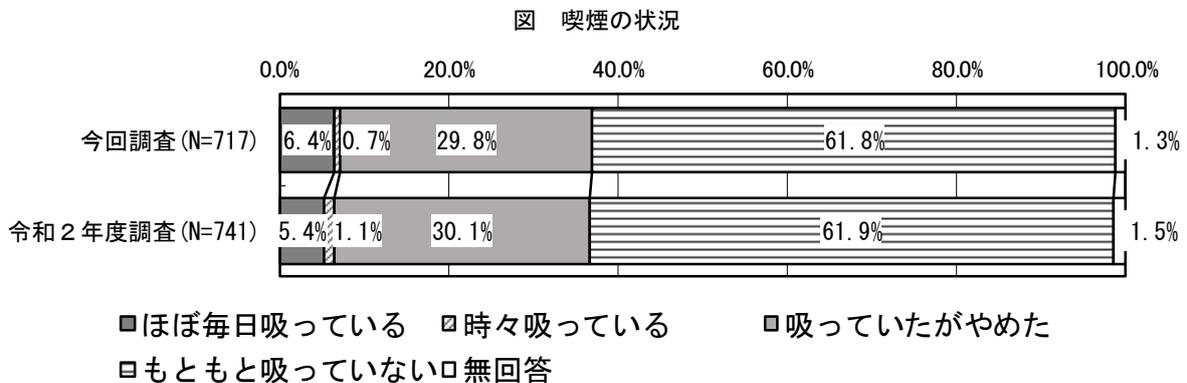
令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



(5) 喫煙の状況

喫煙の状況についてみると、「もともと吸っていない」(61.8%)が最も多く、次いで「吸っていたがやめた」(29.8%)、「ほぼ毎日吸っている」(6.4%)となっています。喫煙習慣がある方(「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計)は7.1%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

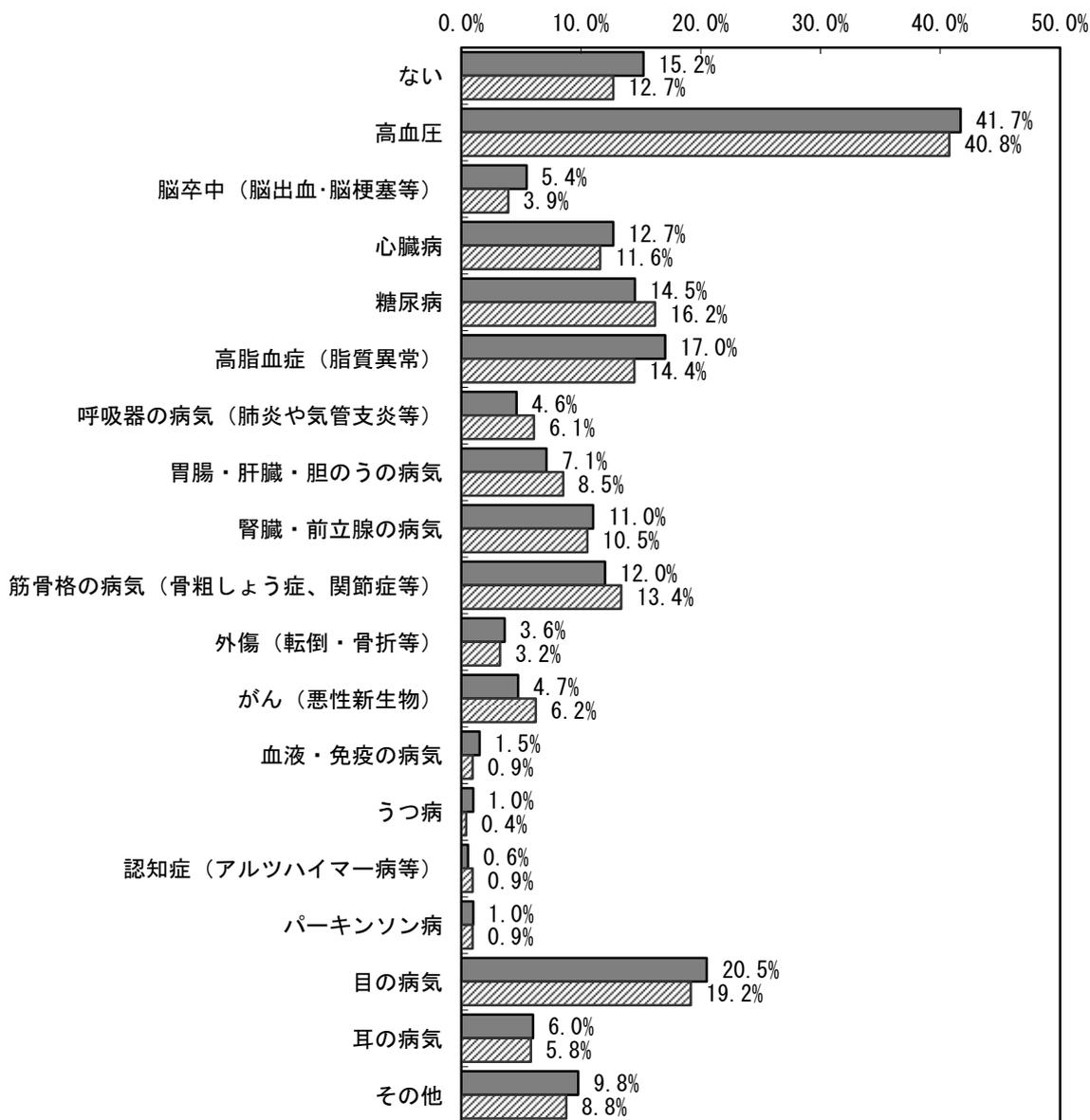


(6) 現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、「高血圧」(41.7%)が最も多く、次いで「目の病気」(20.5%)、「高脂血症(脂質異常)」(17.0%)となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。

図 現在治療中、または後遺症のある病気(複数回答)

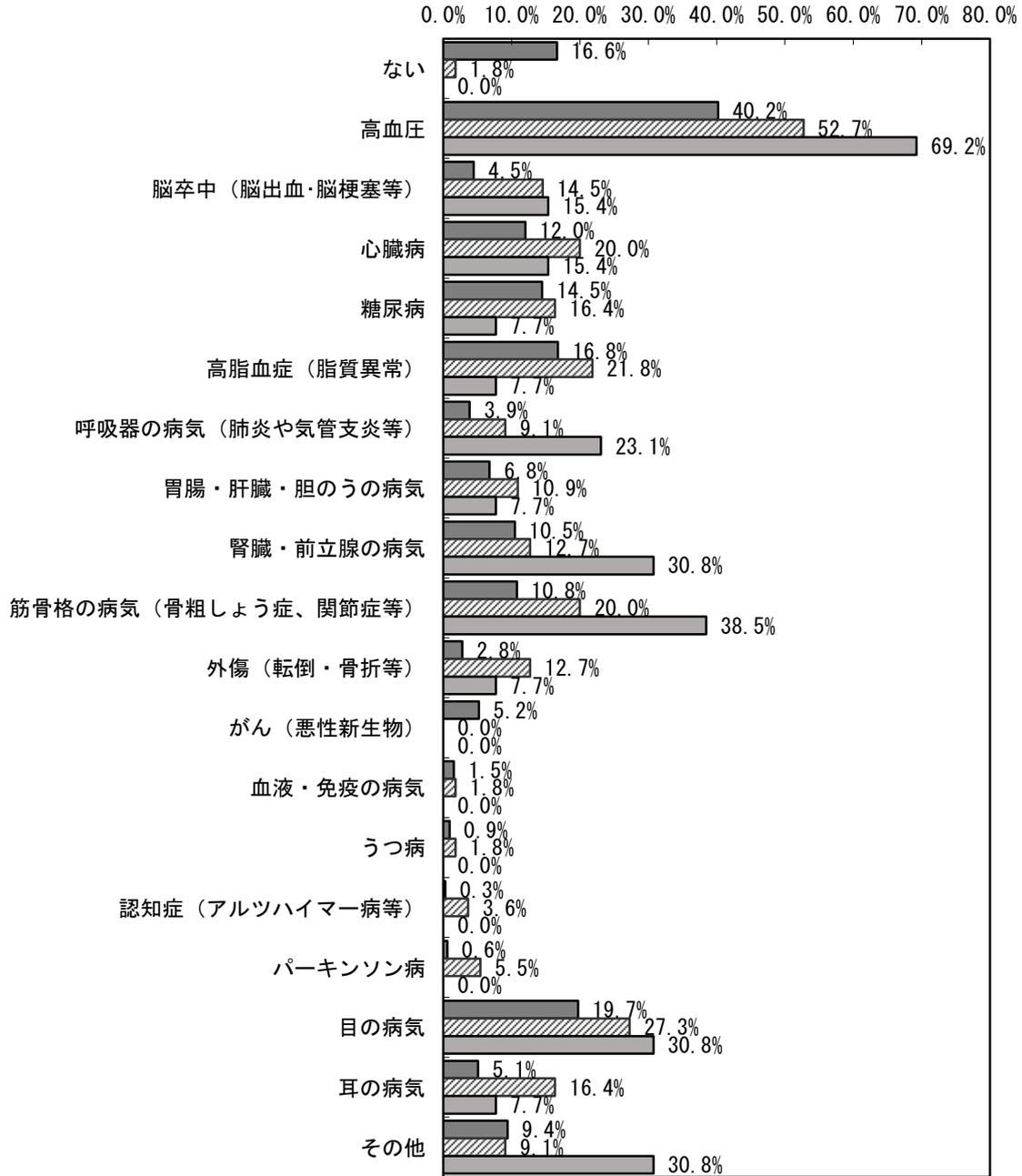


■今回調査(N=717) ▨令和2年度調査(N=741)

● 認定状況別

認定状況別にみると、すべての認定状況で高血圧が最も多くなっています。また、総合事業対象者は一般高齢者と要支援者に比べて「呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）」や「腎臓・前立腺の病気」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が10ポイント以上多くなっています。

図 認定状況別 現在治療中、または後遺症のある病気（複数回答）



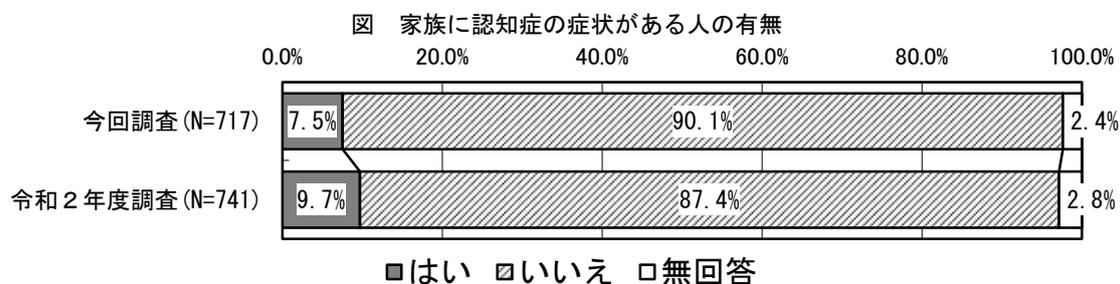
■一般高齢者 (N=649) ▨要支援者 (N=55) □総合事業対象者 (N=13)

9 認知症にかかる相談窓口等の把握について

(1) 家族に認知症の症状がある人

家族に認知症の症状がある人の有無についてみると、「いいえ」が90.1%、次いで「はい」が7.5%となっています。

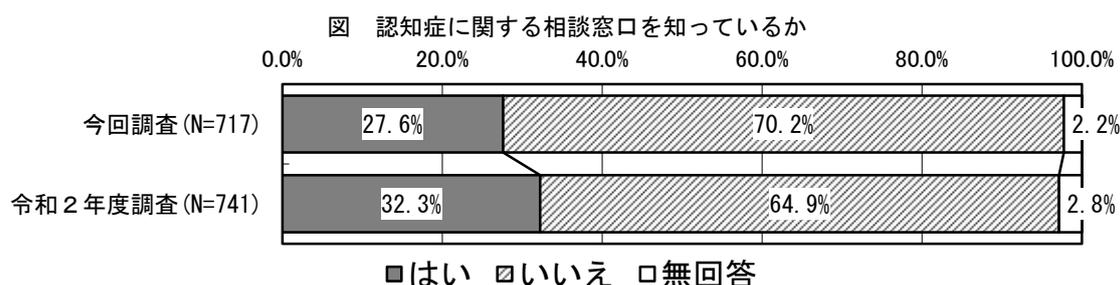
令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



(2) 認知症に関する相談窓口の認知状況

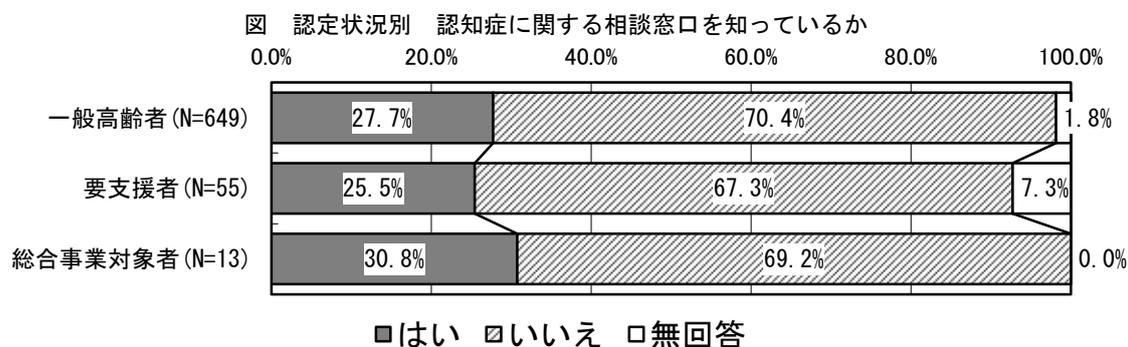
認知症に関する相談窓口を知っているかをみると、「いいえ」が70.2%、「はい」が27.6%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「いいえ」は5.3ポイント多くなっています。



● 認定状況別

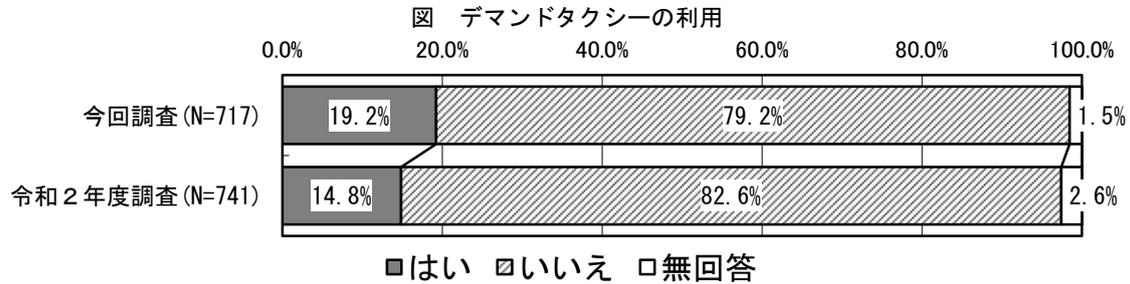
認定状況別にみると、認知症に関する相談窓口を知らない方はすべての認定状況で約3割となっています。



10 その他について

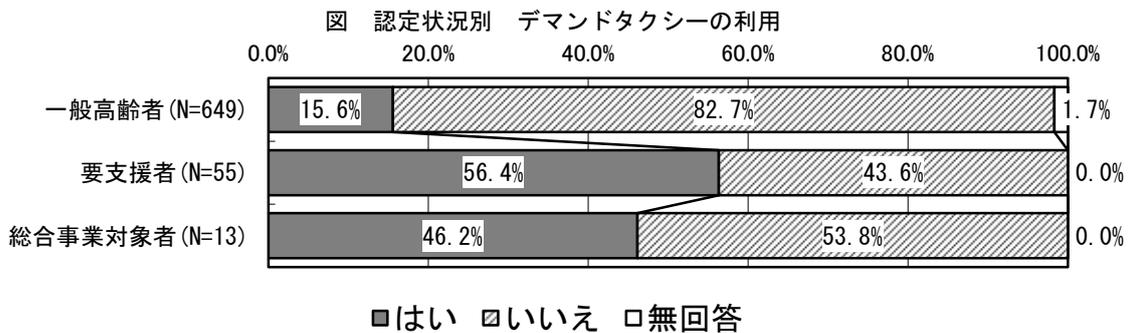
(1) デマンドタクシーの利用

デマンドタクシーの利用についてみると、「いいえ」が79.2%、「はい」が19.2%となっています。令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



● 認定状況別

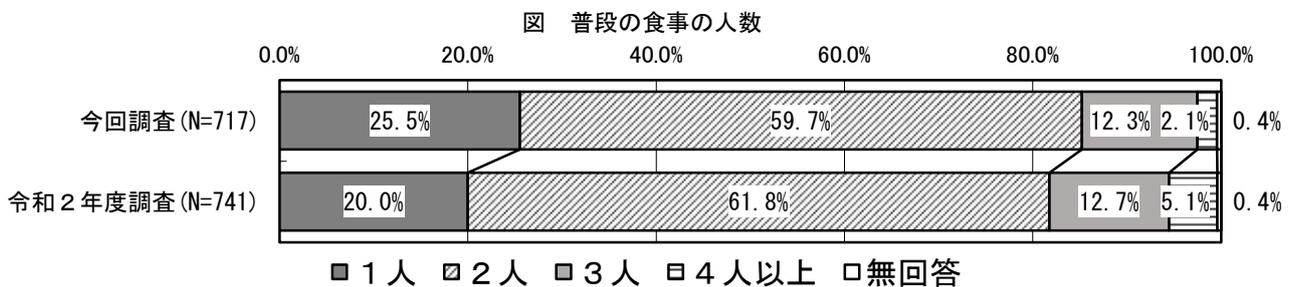
認定状況別にみると、デマンドタクシーを利用している方は要支援者が56.4%で最も多くなっています。



(2) 普段の食事の人数

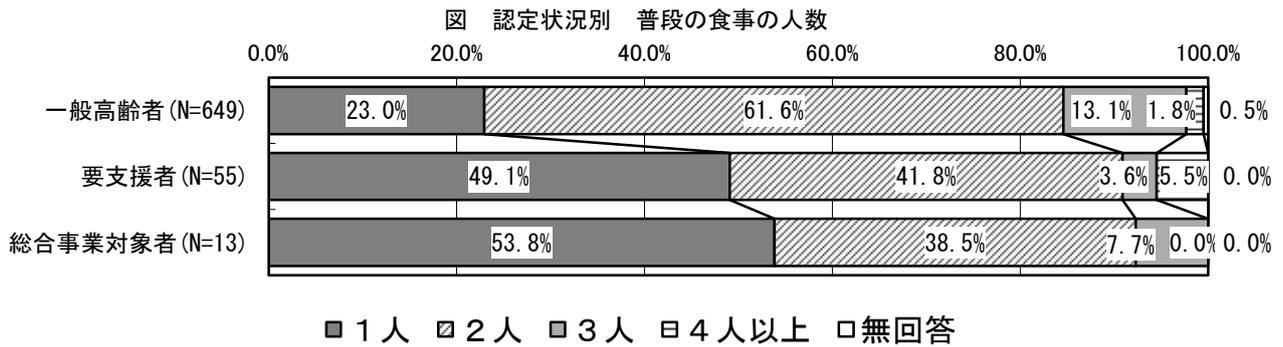
普段の食事の人数についてみると、「2人」(59.7%)が最も多く、次いで「1人」(25.5%)、「3人」(12.3%)となっています。

令和2年度調査と比較すると、「1人」は5.5ポイント多くなっています。



● 認定状況別

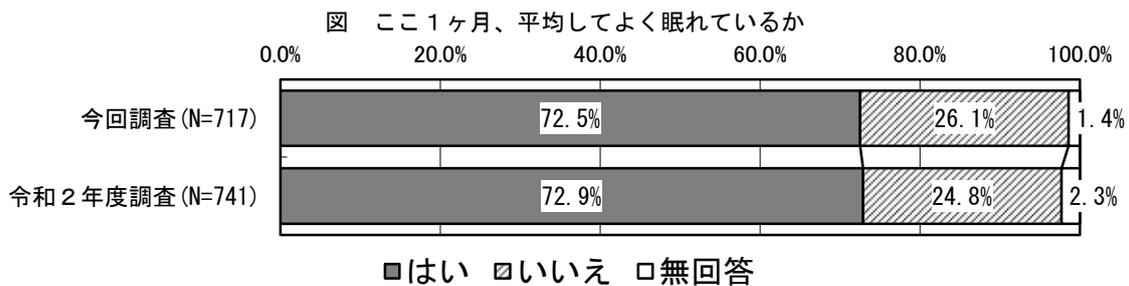
認定状況別にみると、「1人」は要支援者と総合事業対象者が約5割となっています。



(3) ここ1ヶ月、平均してよく眠れているか

ここ1ヶ月、平均してよく眠れているかをみると、「はい」が72.5%「いいえ」が26.1%となっています。

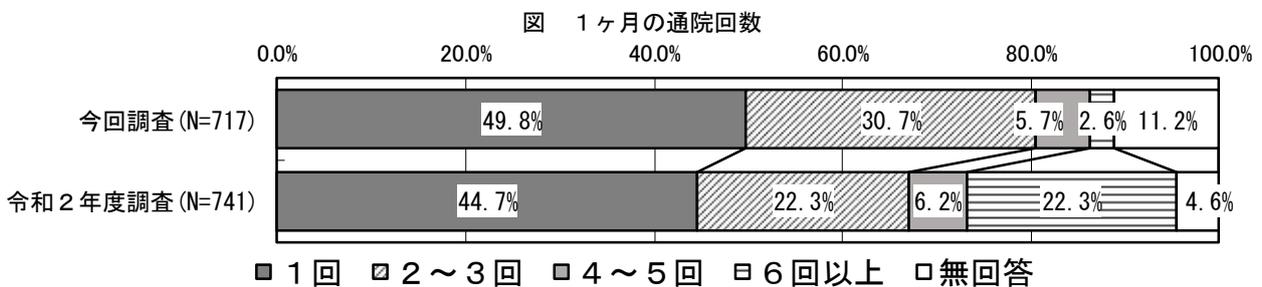
令和2年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



(4) 1ヶ月の通院回数

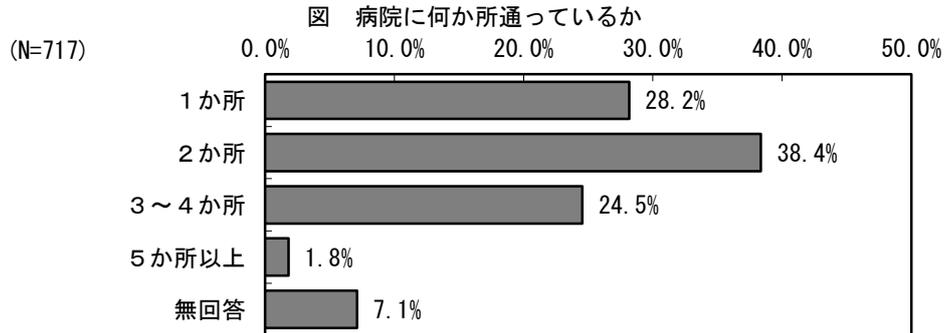
1ヶ月の通院回数をみると、「1回」(49.8%)が最も多く、次いで「2~3回」(30.7%)、「4~5回」(5.7%)となっています。

令和2年度調査と比較すると、「6回以上」は19.7ポイント少なくなっています。



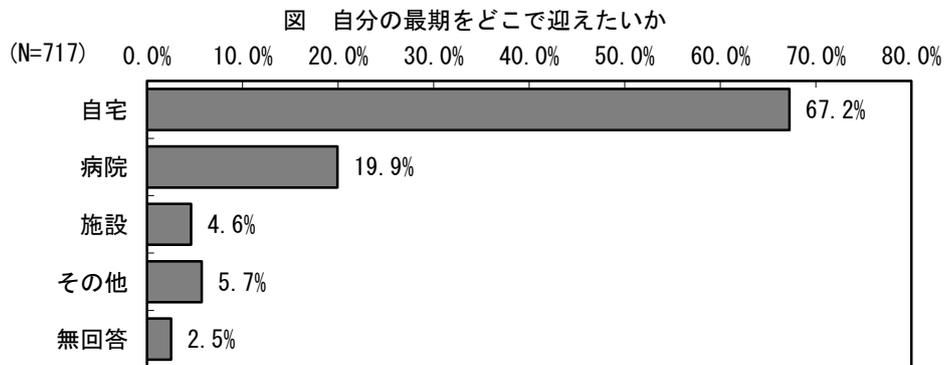
(5) 病院に何か所通っているか

病院には何か所通っているかをみると、「2か所」(38.4%)が最も多く、次いで「1か所」(28.2%)、「3～4か所」(24.5%)となっています。



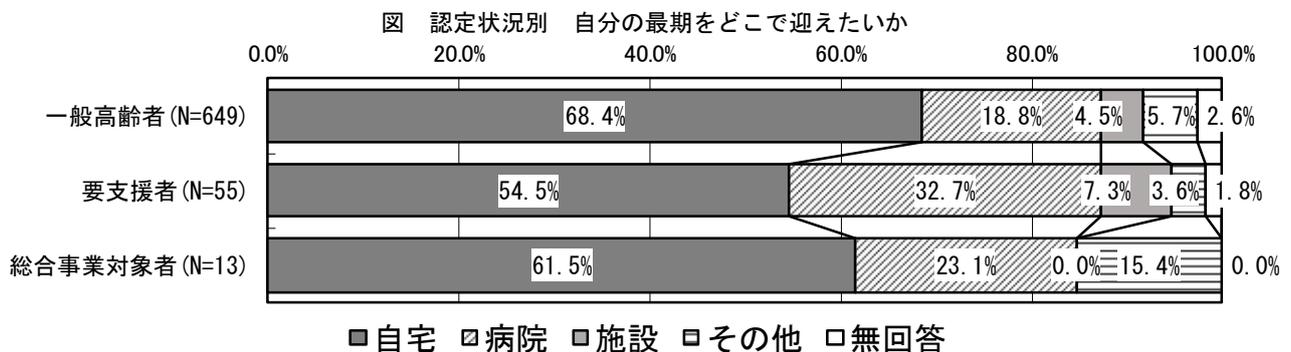
(6) 自分の最期をどこで迎えたいか

自分の最期をどこで迎えたいかをみると、「自宅」(67.2%)が最も多く、次いで「病院」(19.9%)、「その他」(5.7%)となっています。



● 認定状況別

認定状況別にみると、自宅以外（「病院」、「施設」、「その他」）と答えた人は要支援者が最も多くなっています。



11 自由記述

介護保険制度や高齢者福祉について自由に意見を記述してもらったところ、144 件の記述がありました。内容を分類した結果は下記の通りとなっています。複数の内容に関する記述があった場合はそれぞれに計上しているため、内訳の合計と記述があった件数は一致しません。

表 介護保険制度や高齢者福祉について（自由記述）

内容	件数
各保険料について	39
相談体制、情報周知の充実について	19
タクシーについて	17
健康、健康づくりについて	12
バスについて	11
介護保険について（その他）	11
買い物について	8
介護保険について（利用せずに済んでいる）	8
介護保険について（助かっている）	7
医療機関、通院について	6
在宅介護・医療について	4
地域のたすけあいについて	4
趣味・生きがいについて	3
居場所づくりについて	3
経済支援について	3
介護保険について（今後利用したい）	3
介護施設について	3
公共施設について	3
アンケートについて	3
住宅改修、バリアフリーについて	2
免許返納について	1
公営住宅について	1
その他	22
謝辞	8
合計（記載があった件数）	144

三郷町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書

令和6年3月

発行：奈良県生駒郡三郷町長寿健康課

〒636-0812

奈良県生駒郡三郷町勢野西 1-2-1

TEL (0745) 43-7323
